学習活動支援ソフト「絆」

「絆(小学校)」「絆(中学校)」

(Ver2.1)

活用マニュアル

絆とは、一般に「人と人との結びつき」のことをいいます。また、「犬や馬を繋ぎ止めておく綱」(語源由来辞典)が絆の語源といいます。

学習活動支援ソフト「絆」は、「児童生徒と児童生徒」「児童生徒と教師」を結びつけるだけでなく、「児童生徒と学習内容」繋ぎ止めるものであって欲しいという願いで作成されました。

平成３１年２月

※本マニュアル及びソフトウエア「絆(小学校)」「絆(中学校)」は、與古田が作成し公開したものです。

※本ソフトウェア(設定ファイル等を含む)及び本マニュアルは、アマチュアプログラマの作成者が休日等を利用し作成したものです。十分な検証は行っていません。もし不具合等が見つかりましたらご容赦ください。作成者まで、ご連絡いただけると助かります。

※本マニュアルは、「絆」開発中に作成されたものであり、掲載された画面等が提供する製品と変わる場合があります。また、予告なく変更を行う場合があります。

※本ソフトウエアを活用した授業実践はまだ少なく、実践上のアイディア(学習の展開や学習 HP の作成等)を募集しております。

※「絆」は、小学校児童生徒が活用する「絆(小学校)」と中学校生徒が活用する「絆(中学校)」があります。本マニュアルは、その両方を説明しています。そこで、子どもの呼び名を「児童生徒」と表記します。

※文中の「エクセル」とは、Microsoft 社の Microsoft Excel のことです。「Word」は、同じく Microsoft 社の Microsoft Word のことです。

※ Microsoft Excel、Microsoft Windows 10、Microsoft Windows 8.1、Microsoft Windows 7、Microsoft Windows Vista、Microsoft NetFramework その他本マニュアルで記載している Microsoft 社の製品は　Microsoft Corporation の登録商標です。

※「一太郎」は、ジャストシステム社の登録商標です。

Ⅰ章　「絆」を活用した学習　　１ページ
１ 主体的・対話的で深い学び
２「探求的活動」と実践上の課題
３ 「絆」を活用した学習の概要
４ 「絆」での支援「課題の設定」
５ 「絆」での支援「情報の収集」(フォルダ)
６ 「絆」での支援「情報の価値付け」(学習ノート)
７ 「絆」での支援「情報の整理・分析」
８ 「絆」での支援(学習支援機能と授業支援機能)
９ 「絆」での支援(学習支援機能の概要１)
１０ 「絆」での支援(学習支援機能の概要２)
１１ 「絆」での支援(学習支援機能の概要３)
１２ 「絆」での支援(授業支援機能の概要)
１３ 「絆」での支援 「学習状況把握」
１４ 「絆」を活用した学習と支援
１５ 「絆」での学習① 言語力育成
１６ 「絆」での学習② 情報モラルの指導
１７ 「絆」での学習③ 学習環境の工夫

Ⅱ章　「絆」の概要　　１９ページ
１「絆」の利用形態
２ 必要な機器構成と制限
３ 対象者と機能
４ 単元と公開範囲、期限
５ ユーザー ID とパスワード

Ⅲ章　インストール　　２５ページ
１ インストールの概要
２ システムのインストール①
３ システムのインストール②
４ システム設定①　基本情報入力
５ システム設定②-1 教師名簿登録①
６ システム設定②-2 教師名簿登録②
７ 授業設定① 児童(生徒)名簿の登録
８ 授業設定② 単元の設定
９ 一台のパソコンで使用する場合

Ⅳ章　対象者毎のメニュー画面と機能　　３５ページ
１ システム管理メニューの機能
２ 教師メニューの機能①

３ 教師メニューの機能②
４ 児童生徒メニューの機能①
５ 児童生徒メニューの機能②

Ｖ章　各画面の機能一覧　　４１ページ
１ ログイン
２ 学校基本情報設定
３ 教師名簿①　初期入力(エクセルファイルからの貼り付け)
４ 教師名簿②　追加入力･その他
５ ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの変更とﾆｯｸﾈｰﾑの設定
６ 学級の児童生徒名簿
７ 単元の設定①　単元名・公開範囲・フォルダ容量
８ 単元の設定②　学習設定１
９ 単元の設定③　学習設定２
１０ 単元の設定④　しおり・つなぎ言葉
１１　データフォルダの設定

Ⅵ章「絆」の学習画面　　５３ページ
１　学習画面の概要
２　学習画面の表示モード
３　情報部の表示
４　学習画面の設定
５　Web ページ
６　交流広場①　画面構成
７　交流広場②　投稿表示部(表示)
８　交流広場③　投稿表示部(更新)
９　交流広場④　テーマの選択・作成
１０　交流広場⑤　投稿の入力
１１　交流広場⑥　投稿の更新
１２　フォルダ
１３　レポート
１４　学習ノート①　学習ノートの意義と必須情報
１５　学習ノート②　作成トレイ、ノート作成(Web)
１６　学習ノート③　ノート作成(フォルダ)
１７　学習ノート④　ノートの表示、情報元
１８　学習ノート⑤　検索と画像情報、印刷
１９　学習状況表示①　学習状況一覧表
２０　学習状況表示②　学習状況表示モード

Ⅰ章

「絆」を活用した学習

１　主体的・対話的で深い学び
２「探求的活動」と実践上の課題
３「絆」を活用した学習の概要
４「絆」での支援「課題の設定」
５「絆」での支援「情報の収集」(フォルダ)
６「絆」での支援「情報の価値付け」(学習ノート)
７「絆」での支援「情報の整理・分析」
８「絆」での支援(学習支援機能と授業支援機能)
９「絆」での支援(学習支援機能の概要1)
１０「絆」での支援(学習支援機能の概要2)
１１「絆」での支援(学習支援機能の概要3)
１２「絆」での支援(授業支援機能の概要)
１３「絆」での支援　「学習状況把握」
１４「絆」を活用した学習と支援
１５「絆」での学習①　言語力育成
１６「絆」での学習②　情報モラルの指導
１７「絆」での学習③　学習環境の工夫

この章では、学習活動支援ソフト「絆(小学校)」「絆(中学校)」(以下「絆」)のを活用した際の学習活動や支援を説明します。

開発者の願いや「絆」の学習効果等について記載されています。

是非最初にお読みください。

Ⅰ　「絆」を活用した学習

1 主体的・対話的で深い学び

新学習指導要領では、**「主体的・対話的で深い学び」**がより重要になります。中央教育審議会（平成 28 年）[※1]では、

①学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる**「主体的な学び」**が実現できているか。

②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める**「対話的な学び」**が実現できているか。

③習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた**「見方・考え方」**を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えをもとに創造したりすることに向かう**「深い学び」**が実現できているか。

という視点を示しています。

主体的・対話的で深い学びの視点で行われる学習は、特定の指導方法を指すものではありませんが、具体的な例として次のような学習活動が示されています。

〇社会科において課題を追究し解決する活動
〇理科において観察・実験を通じて課題を探究する学習
〇体育における運動課題を解決する学習
〇美術における表現や鑑賞の活動

「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、課題を探求したり、解決したりすることを通した学習活動を行う**「探求的な学習」**がより重要となります。

※1　中央教育審議会
幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第 197 号）平成 28 年 12 月 21 日

Ⅰ　「絆」を活用した学習

2「探求的な活動」と実践上の課題

「探求的な学習」は、これまでも多くの学校で実践されてきました。

「探求的な学習」は、一般的に　つかむ(課題の設定)　→追求する(情報の収集)　→まとめる(情報の整理・分析)　→　表現する(発表・制作)　といった学習過程があります。

各学校では、学校や地域の特性をうまく活用しながら教材研究を深め、探求学習行っていることと思います。しかし、一人の教師が３０人以上の児童生徒の活動を把握し的確な支援を行うことは容易ではありません。探求学習における学習過程とこれまで支援例、課題について表Ⅰ-1 のようなことが考えられます。

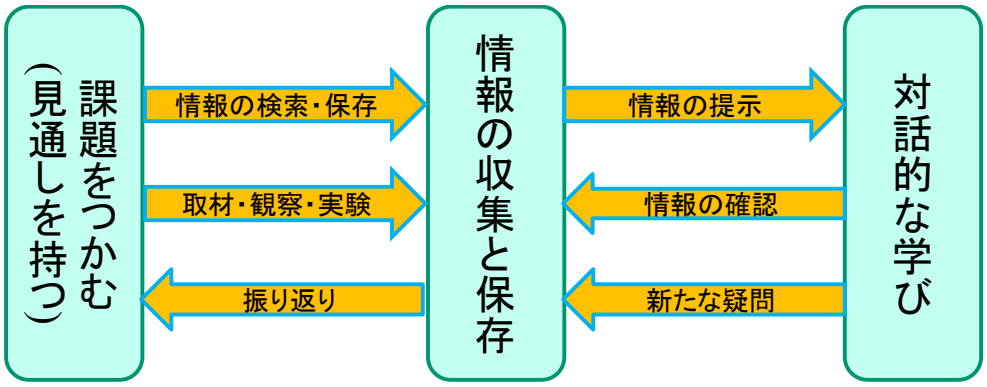
表Ⅰ-1　探求学習を行う上での支援例と課題

学習過程	支　援　例	課　題
つかむ 課題設定	○事前に児童生徒の興味・関心を適切に把握し、課題意識を高める意図的な働きかけを行う。 ○学習課題に直接触れる体験活動や実験、ビデオ鑑賞、資料提示などを行う。	○全ての児童生徒が、課題を的確に把握できたかわからない場合がある。 ○課題を十分把握していない児童生徒をつかむために、これまでの児童生徒の実態や教師の勘に頼る事が多い。
追求する 資料収集	○インタビューや実験など、児童生徒が主体的活動ができるための学習環境を設定する。 ○集めた情報をコンピュータやファイル等に収集し、取り出しやすいようにする。 ○情報コーナーを設け、資料や実物、実験装置などを用意し、児童生徒が自由に調べる支援を行う。	○児童生徒がどんな情報を持っているがの把握や、情報を集めきれない児童生徒の発見・支援が困難な場合がある。 ○調べた情報が課題からそれた場合でも、教師がタイムリーに把握・支援することが困難な場合がある。
まとめる 整理分類	○集めた情報を分類・整理・比較・統合する環境を設定する。 ○ペア学習や小グループ学習を取り入れ、他の児童生徒との話し合いの場面を設定する。 ○話し合いの際、自分の意見の根拠となる資料を示すよう支援する。	○集めた情報を、児童生徒が適切に引き出すことが困難な場合がある。 ○児童生徒同士の話し合いについて、教師がすべて把握し適切な助言ができない場合がある。 ○問題意識を持たない児童生徒、話し合いで聞き役だけになっている児童生徒への的確な支援が困難な場合がある。
表現する	○集めた情報、話し合った情報から、これまで学習したことを振り返り、プレゼンテーションソフトなどを活用して調べた内容に即した方法でまとめるよう支援する。 ○表現する相手を意識し、発表の方法や表現の仕方を支援する。	○探求が深まっていない児童生徒や課題からそれた探求を行った児童生徒の支援が十分でない場合がある。

3「絆」を活用した学習の概要

学習活動支援ソフト「絆(小学校)」「絆(中学校)」(以下「絆」と称する)は、児童生徒の「探求的な学習」を支援するソフトウェアです。

「絆」は、児童生徒が「探求的な学習」行う中で、前述した実践上の様々な課題を解決するため開発されました。教師だけでは十分に支援できない部分を、コンピューターやネットワークの機能を最大限に生かし、様々な機能を複合的に活用することでサポートします。「絆」を活用した学習では、教師と「絆」が連携しながら効果的な「探求的な学習」を支援します。



「つかむ」過程
(課題設定)

「追求する」過程
(情報収集と保存)

「まとめる」過程
(整理・分析)

図Ⅰ-1　「絆」での学習過程

「絆」での学習でも一般的な探求的な学習と同様に、 つかむ(課題の設定) →追求する(情報の収集) → まとめる(情報の整理・分析) の学習過程があります。

それぞれの段階で、コンピューターやネットワークの機能を最大限に生かし、後述する様々な支援を行います。これらの支援を基に、児童生徒が興味関心を持続させながら主体的に探究活動を進めていきます。また、「まとめる」過程で、新たな疑問が出てきた場合は、「追及する」過程に戻り情報収集を行うことができます。また、もう一度振り返り課題を確認することができます。このように、児童生徒のペースで学習を進めることができます。

「絆」は、児童生徒一人一人の学習の様子を常に把握することができます。学習状況一覧表で、児童生徒の学習状況をリアルタイムで一覧したり、個々の児童生徒の学習の様子をモニタしたりすることができます。また、授業後に交流広場での交流をＣＳＶファイルに書き出し、エクセル等で表示することができます。

教師は、このような機能をもとに、課題がそれている子や学習が停滞している子に対し個別に指導することができます。

Ⅰ　「絆」を活用した学習

4「絆」での支援「課題の設定」

一般に、児童生徒が自ら課題を見つけそれを解決する学習形態では、児童生徒が自由に学習を行なうことができ主体性が期待できます。しかし、児童生徒が目標をしっかり捉えていなければ、教師が意図する学習からそれたり、学習そのものが停滞することも考えられます。また、児童生徒が教師の期待する調べ学習を行なっている場合でも、特定の部分のみ学習し、学習のムラが出る可能性もあります。

そこで、児童生徒の課題設定の支援として「先生より」「学習ホームページ(学習ＨＰ)」２つの機能を活用します。これらは、学習の前に教師が設定します。それぞれの特徴とねらいは、次のようになります。

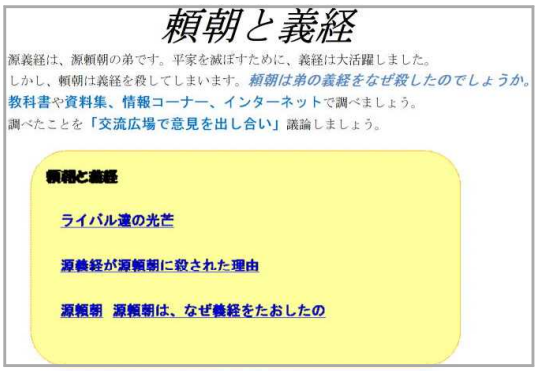
表Ⅰ-2　「課題の設定」での支援

機能	設定の内容	教育的効果
先生より	本時の「学習のねらい」や「学習の進め方」をわくわく感を持って取り組めるよう、短い言葉で記述。	ねらいや学習の進め方の確認。学習の方向付け。
学習ＨＰ	「学習課題」や「(具体的な)学習の進め方」、情報源である Web ページへのリンク集を記述。	ねらいと学習の進め方の確認。情報源の確認と学習への誘導。

「先生より」は、毎時間の学習を始める前に確認する教師からのメッセージです。「学習のねらい」や「学習の進め方」について、先生の言葉で方向付けを行います。

「この方法ならできるかもしれない。」と子ども達が見通しを持つためには、「学習 HP」の活用が効果的です。学習 HP は、「絆」の Web ページに最初に表示される特別なホームページで**児童生徒の探求的な学習の入り口です。**多くの児童が、学習 HP でリンク付けされた Web ページを参照することから探求的な学習を始めていきます。

学習 HP は、学習課題や学習の進め方、Web ページへのリンク集などで構成され、一太郎や Word といったワープロソフトで教師が作成します。

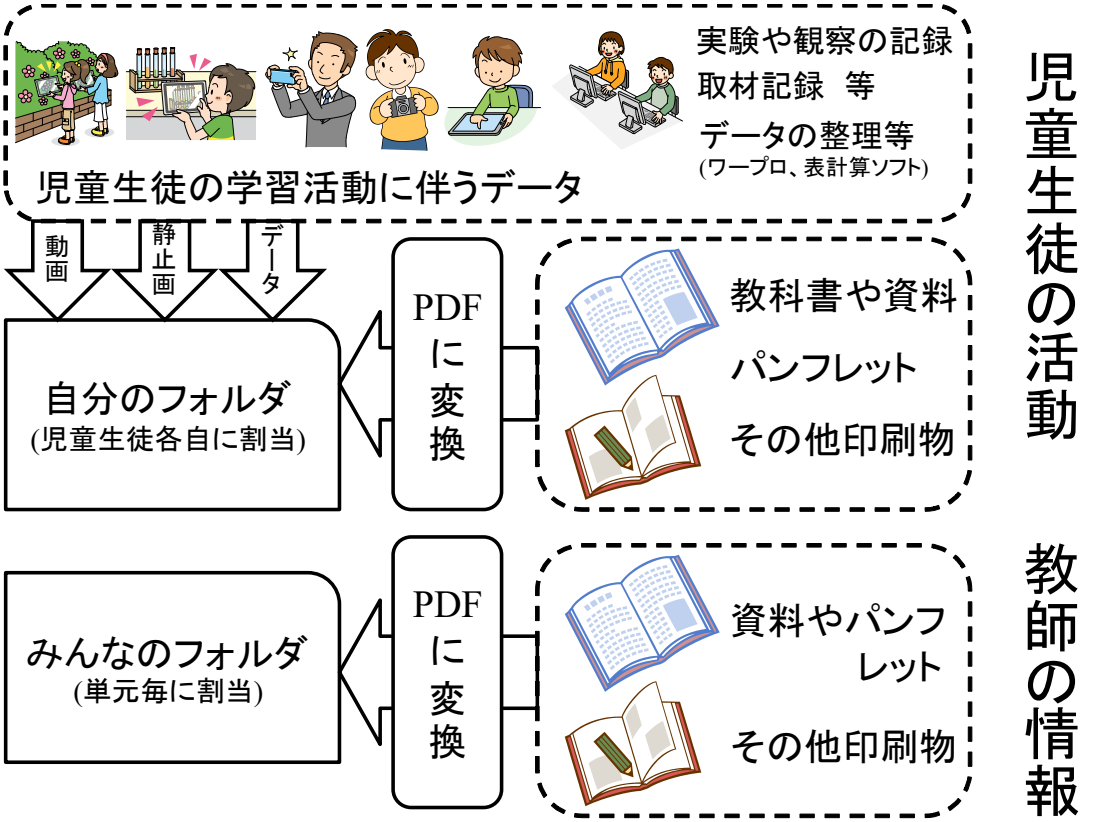


←タイトル
←学習課題
←学習の進め方

←リンク集

図Ⅰ-2　学習ホームページの例

5「絆」での支援 「情報の収集」(フォルダ)



図Ⅰ-3　情報の収集とフォルダ

「追求する」段階では、課題解決に必要な情報を収集し、情報どうしを比較・検討したり、意味づけする学習活動を行います。そのために、「絆」には、次の２種類のフォルダが用意されています。

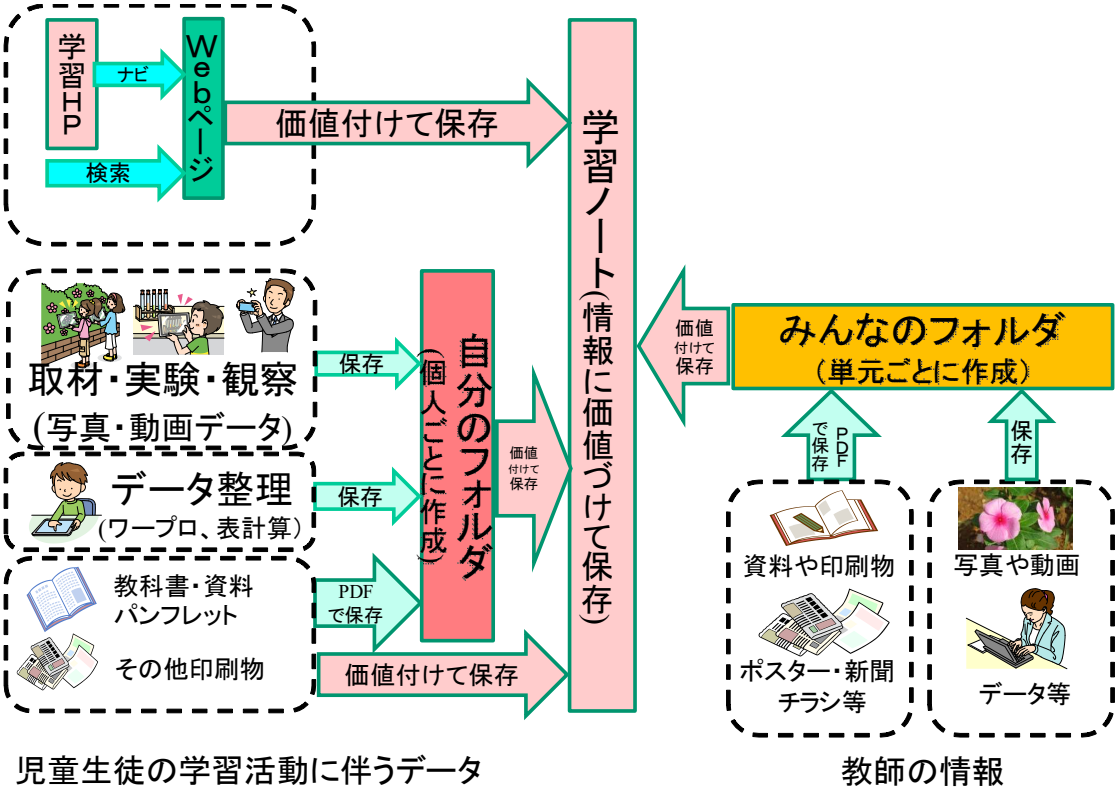
自分のフォルダ‥‥児童生徒各々に提供される個人専用のフォルダです。ログイン ID で管理され、他の児童生徒のフォルダを直接閲覧することはできません。

取材・実験・観察等で得られた写真や動画のデータ、ワープロや表計算ソフト等で作成されたデータ、教科書・資料等の PDF 形式のデータなど、児童生徒が学習活動で得た自分のデータを保存します。

みんなのフォルダ‥‥単元ごとに作成されるフォルダです。単元にかかわるすべての児童生徒が閲覧したり活用したりすることができます。

資料や印刷物などを PDF 形式にしたデータや写真や動画、ワープロや表計算ソフト等で作成されたデータなど、主に教師が単元の学習を進めていく中で必要だと思われる共有のデータを保存します。

6「絆」での支援　「情報の価値付け」(学習ノート)



図Ⅰ-4　「情報の価値付け」の学習過程

絆での学習では、児童生徒が収集した情報(Web 上の情報、「自分のフォルダ」に保存した情報など)や教師から提供された情報(「みんなのフォルダ」に保存された情報、本や資料等の情報など)を、児童生徒が価値付け「学習ノート」に保存します。

学習ノートは、様々な情報源のタイトルや内容とともに児童生徒の「感想」などを付加して価値づけるツールで、一人で何枚も作成することができます。学習ノートに価値づけられた内容は、交流広場で考えの「根拠」として提示することができます。

さらに、学習ノートは、情報源となった Web ページのアドレスやフォルダ場所の情報を合わせて持っています。そのため、他の児童生徒から主張の根拠として示された学習ノートだけでなく、その情報源まで遡って表示・確認し、自分の考えと比較・検討することができます。(「本や資料」で保存した場合は除きます。)

１枚の学習ノートには、１つの情報を保存します。同じ Web ページの情報でも、別の情報が書かれているときには、新しい学習ノートを作成しそこに保存します。フォルダが情報源の場合でも、１つのファイルしか指定できません。(**１枚１情報の原則**)

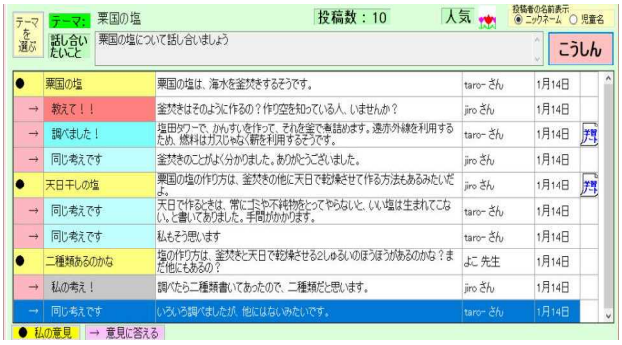
学習ノートには、「重要」「原因」「結果」など教科によって設定できる「しおり」を指定することができます。

学習ノートは、学習が進むにつれて多くの枚数になることが予想されます。そこで、「タイトル」や「しおり」で検索する機能があり、学習ノートを簡単に見つけることができます。

Ⅰ　「絆」を活用した学習

7「絆」での支援「情報の整理・分析」

情報の整理・分析の学習では、「対話的な学び」を通して「人」「もの」「自分」と対話し、課題解決を図ります。そのために、絆の「交流広場」を活用します。「交流広場」は、子ども同士の対話を促進するために設けられた機能です。チャット機能をベースにした学習用の掲示板で、交流の様子を他の児童生徒や教師が見ることができるとともに、自由に交流に参加したり脱退したりすることができます。



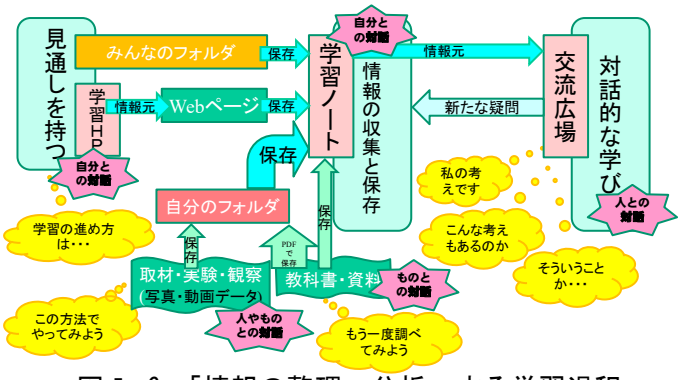
図Ⅰ-5　「交流広場」の画面

交流広場では、児童生徒が意見や調べた内容等を出し合い、みんなで課題解決を行います。

話し合いに、学習ノートを根拠として提示することができます。提示された学習ノートは、児童生徒が自由に閲覧することができます。また、学習ノートから情報源の「Web ページ」や「フォルダを」表示して確認することもできます。それぞれが、意見を述べ合うことによって、共同で課題を解決するすることができます。

①「人」や「もの」との対話

「人」との対話とは、子ども同士の対話、教職員や家族、地域人材等との対話があげられます。また、「もの」との対話では、事象や事実との対話、本や資料そしてインターネットなどの情報との対話があげられます。また、「先哲の知恵」などこれまで培われてきたことも含まれます。



図Ⅰ-6　「情報の整理・分析」する学習過程

「○○と思う」だけでなく、根拠を示して考えを主張することで自分の考えにこだわりや自信が生まれ、説得力が強くなります。子ども同士が根拠を示し合い議論を深めていく中で、根拠の吟味や新しい情報の必要性などに気がつくとともに、自分の考えを広げたり修正することができます。

②「自分」との対話

「自分」との対話は、「人」や「もの」との対話を通じて自分の考えを再吟味したり、考えを広げたり、考えを再構築したりすることなどがあげられます。

Ⅰ　「絆」を活用した学習

8「絆」での支援(学習支援機能と授業支援機能)

絆を活用した学習では、教師と絆が連携しながら効果的な「探求的な学習」を支援します。

前述したように、「絆」では「学習ホームページ」や「フォルダ」、「交流広場」、「学習ノート」などを児童生徒が自由に選択し「探求的な学習」を深めていきます。このように、児童生徒の学習を支援するために用意された機能を、絆では**「学習支援機能」**と呼んでいます。

しかし、児童生徒の学習が停滞したり、意図する学習からそれたりすることも考えられます。そこで、児童生徒一人一人の学習の状況をリアルタイムに把握し指導に生かす**「授業支援機能」**があります。「授業支援機能」には、児童生徒の学習状況がリアルタイムで一覧できる「学習状況把握機能」、児童生徒の学習ノートに教師のコメントを挿入できる「コメント機能」、児童を特定し学習ノートへの書き込みや交流広場で書き込みの表示できる「閲覧機能」、交流広場で書き込みを CSV ファイルに出力し、子どもの学びをたどることができる「授業振り返り機能」があります。

「絆」は、「児童生徒が自分の考えで主体的に探求的な学習を行なう」ことを最大限に保証しつつ、教師が「児童生徒の学びを支援」のために「児童生徒の学習の様子を常にモニタし授業をサポート」することができます。「絆」を上手に活用することで、教師の掌の中で児童生徒が主体的に学習活動を行なうことが出来ると考えます。

Ⅰ　「絆」を活用した学習

9「絆」での支援(学習支援機能の概要1)

「絆」の**「学習支援機能」**は、児童生徒の学習を支援する機能の総称です。具体的には、次の機能があります。

○**「Webページ表示機能」**・・・・・教師の作成した学習ホームページ(学習 HP)や Web ページを表示する機能です。また、Web ページは検索サイトの検索機能を活用することもできます。表示された Web ページの文字や写真は、ドラッグアンドドロップで学習ノートに取り込むことができます。

○**「学習HP」**・・・・・・探求的な学習では、児童生徒が闇雲にインターネットを検索しても効果的な学習は期待できない場合があります。そこで、教師が作成する特別な「ホームページ」を「学習 HP」と呼び、学習をナビゲートする機能を持たせました。

「学習 HP」には「授業のめあて」や「探求学習の進め方」とともに、学習に必要な Web ページへのリンクなどを含んだホームページです。word や一太郎などのワープロソフト等を使って教師が作成します。

児童生徒は「学習 HP」を確認し、そこからリンクを張ったＷｅｂページを閲覧したり、Web ページを検索したり、フォルダを確認するなどの学習を始めます。また、Web ページはいつでも「学習 HP」に戻ることができるので、「学習 HP」を確認して学習の続きを行うことができます。

「学習 HP」を上手く作成することで、児童生徒の学習効果を高めることができます。「学習 HP」は、学習の方向を決めたり必要な情報へのアクセスを容易にする機能として、**学習ナビ機能**と呼んでいます。

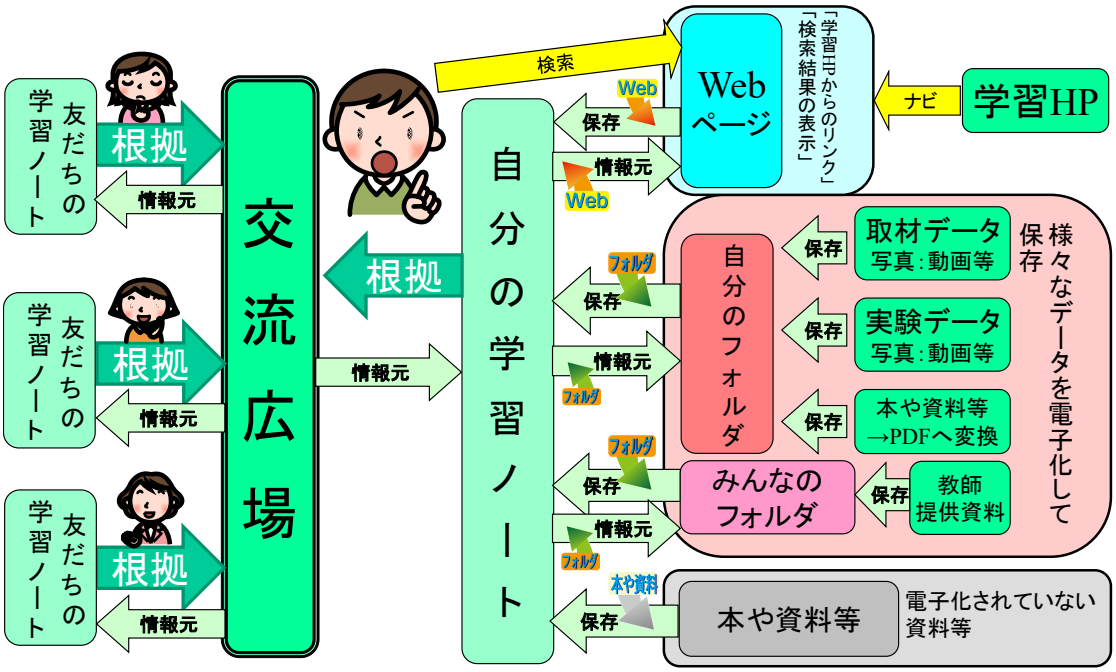
○**「学習ノート」**・・・・「Web ページ」や「フォルダ」および「本や資料」の情報をカード形式に保存する機能です。保存された情報は、「タイトル」や「しおり」で検索できるほか、交流広場において論拠として活用したり、レポートを作成する際に資料として役立てることができます。また、「Web ページ」と「フォルダ」の情報を保存した「学習ノート」は、情報元を遡って表示し確認することができます。

○**「交流広場」**・・・・・・ある特定のテーマについて児童生徒間や児童生徒・教師間で意見交流を行う機能です。交流広場のテーマは、教師や児童生徒が学習内容に即し自由に設定できるとともに、「つなぎ言葉」を活用することで議論の大まかな様子を知ることができます。

○**「フォルダ」**・・・・・・フォルダは、画像や動画、ワープロデータファイルなどのファイルを管理するものです。「絆」のフォルダ機能は、サーバーにデータを置いているので、どのコンピュータでも自分のフォルダを表示したり、データを保存したりできます。データの保存は、ドラッグアンドドロップで行うことができます。また、ダブルクリックで動画ファイルを表示させたり、ワープロのデータからワープロソフトを立ち上げ、編集することもできます。自分専用の「自分のフォルダ」、単元ごとに作成される「みんなのフォルダ」があります。

Ⅰ　「絆」を活用した学習

10「絆」での支援(学習支援機能の概要2)



図Ⅰ-7　学習支援機能の概略図

図Ⅰ-7 は学習支援機能を活用し、児童生徒が学習を深める過程を示しています。

「絆」での学習は、対話的な学びの一方法として児童生徒同士が議論し学習深める「交流広場」を重要視しています。交流広場を通して、自分の考えを主張したり友だちの考えをもとに自分の考えを修正したりしながら考えを練り上げていくことが大切です。

しかし、話し合いを深めていくためには、基になる自分の考えを持たなくてはいけません。そこで、自分の考えを整理するために、「学習ノート」に様々な情報を保存します。「学習ノート」は、1 つの情報を 1 枚のカードに記録していくようなイメージです。児童生徒は、単元の学習を行う中で何枚でも自由に作成し記録していきます。

「学習ノート」には、「書かれていること(調べたこと)」とともに「Web を見て分かったこと(調べて分かったこと)」も書き込み、資料に価値付けを行います。また、ノート検索機能をもとに容易に目的の「学習ノート」を見つけることができます。

「学習ノート」には、①「Web ページ」、②「自分の(みんなの)フォルダ」にある電子化された情報、③「本や資料」等の電子化されていない情報の 3 種類の情報を保存する事ができます。また、Web ページの情報を元に作成した場合は Web ページのアドレスを、「自分の(みんなの)フォルダ」に記録した電子データの情報を学習ノートに保存する場合、元の情報のアドレスやファイル名も同時に記録されるので、元データを表示することもできます。

Ⅰ　「絆」を活用した学習

11「絆」での支援(学習支援機能の概要3)

図Ⅰ-8　「交流広場」の画面（再掲）

「交流広場」は、児童生徒と教師が自由に議論を行い学習を深めていくための学習用掲示板です。この掲示板では、次に示す 2 種類の議論を入力することができます。

①「●　私の意見」　：テーマに沿った問題提起の投稿をいいます。この投稿をきっかけに議論が始まります。「タイトル」と「意見」を書き込みます。この投稿を「絆」では**「基投稿」**とよびます。

②「→　意見に答える」:「基投稿」に対する意見や感想の投稿をいいます。投稿する立場を明確にする「同じ考えです」「調べました」などの「つなぎ言葉」とともに、「意見」を書き込みます。この投稿を「絆」では**「関連投稿」**とよびます。

「交流広場」では、「基投稿」関連する「関連投稿」をまとめて掲示し、議論の内容が確認しやすいように表示されます。「関連投稿」の中で、議論が深まりを期待しています。「基投稿」とそれに関連する「関連投稿」をまとめて「絆」では**「ブロック」**とよびます。

児童生徒は、すべてのブロックを概観し、自分が主張したいブロックで議論を深めることができます。また、複数のブロックに意見を書き込むこともできます。ブロックでの意見が多くなればなるほど議論が深まっていることが期待されます。

「基投稿」や「関連投稿」では、主張や意見、疑義などを行う場合、自分の学習ノートを提示し、根拠とすることができます。提示された学習ノートは、だれでも閲覧できます。友だちの作成したノートを閲覧したり、その情報元のデータを見ることもできます。自分の主張と友だちの考えを比較し新たな考えを構築したり、自分の主張を補完する情報を調べたりして学習を進めていきます。

「レポート」は、学習のまとめをする機能です。レポートはいくつでも作成できるので、単元の最後だけでなく、単元の途中途中で作成したり修正したりできます。また、修正した過程を振り返ることができ、学習の成果や振り返りに活かすこともできます。

「絆」の大きな特徴は、「Web ページ」「学習 HP」「学習ノート」「交流広場」「フォルダ」「レポート」の「学習支援機能」を児童生徒が単独で活用するだけではなく、６つの機能が繋がり、児童生徒がそれらの機能を切り替えながら学習活動を行うところにあります。

Ⅰ　「絆」を活用した学習

12「絆」での支援(授業支援機能の概要)

児童生徒は、様々な学習支援機能を活用して学習を深めていきます。しかし、すべての児童生徒が教師の意図する学習を行っている保証はありません。学習が停滞していたり、教師が意図する学習からそれている児童生徒を早期に把握し、個別指導を行う必要があります。

そこで、教師が児童生徒一人一人の学習の状況を把握し指導に生かすため４つの「授業支援機能」を用意しました。授業中には、「学習情報把握機能」「コメント機能」「閲覧機能」が有効です。また、授業終了後に、「授業振り返り」機能があります。それぞれの機能について概要を示します。

○**「学習状況把握機能」**‥学習状況一覧表で児童生徒の「ノート作成数」「投稿数」「レポート作成数」「(自分のフォルダの)フォルダ容量」が一覧できる機能です。これまでの学習での累計に加え、今日の作成(投稿)数が表示されます。一見しただけで、児童生徒の学習の様子が把握でき、作成(投稿)の少ない児童生徒を見つけることができます。教師は、これらの情報をもとに、作成数の少ない児童生徒や課題からそれた学習を行っている児童生徒に対し、個別に支援することができます。

「ノート作成数」「投稿数」「レポート作成数」については、児童生徒の学習画面で確認することもできます。教師が机間巡視しながら確認することもできます。

○**「コメント機能」**‥‥‥「学習ノート」及び「レポート」に「先生より」のコメントを付加することができる機能です。教師が、個々の児童生徒の学習活動を評価して励ましたり示唆を与えたりして、児童生徒の学習意欲を向上させたり学習内容の修正を行ったりできます。

○**「閲覧機能」**‥‥‥‥‥‥教師が特定した児童生徒が作成(投稿)した内容を閲覧できる機能です。「学習ノート」「レポート」及び「フォルダ」は、特定した児童生徒の画面と同じように表示できます。また、「交流広場」は、特定した児童生徒を強調表示します。

○**「授業振り返り機能」**‥‥教師が授業の様子を振り返る機能です。

交流広場での交流をＣＳＶファイルに書き出す機能です。エクセル等の表計算ソフトを使って検索したり抽出したりすることで、交流の様子を調べることができます。これらのデータは、児童生徒がどのように学びを深めていったかを容易に読み取ることができる授業記録です。一人一人の評価情報として活用したり、授業研究を深める資料としても活用することができます。

Ⅰ　「絆」を活用した学習

13「絆」での支援　「学習状況把握」

	番号	児童名	性別	ノート数（今日）	投稿数（今日）	フォルダ（MB）	レポート作成（今日）
欠	1	一太郎	男	1（0）	2（0）	0.03 MB	0（0）
欠	2	琉球　次郎	男	1（0）	1（0）	0 MB	0（0）
欠	3	那覇　三郎	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	4	浦添　四郎	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	5	宜野湾　五郎	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	6	金城　和男	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	7	金城　次男	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	8	比嘉　三男	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	9	當山　四男	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	10	登川　五男	男	0（0）	1（0）	0 MB	0（0）
欠	11	赤嶺　太郎	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	12	与儀　次郎	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	13	名護　三郎	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	14	糸満　四郎	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	15	宮城　五郎	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	16	与座　一郎	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	17	石嶺　次郎	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	18	屋宜　三郎	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	19	呉屋　四郎	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	20	宜保　五郎	男	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	21	井上　和子	女	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	22	中野　次子	女	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	23	佐藤　三子	女	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）
欠	24	西銘　四子	女	0（0）	0（0）	0 MB	0（0）

図Ⅰ-9　学習状況把握機能

前述としたとおり、「絆」には多くの機能があり、「探求的な学習」を支援します。様々な支援を通して多くの児童生徒が主体的に学習を進めることができると考えています。

しかし、すべての児童生徒が「探求的な学習」を教師の意図する通りに行うことができたか疑問が残ります。そこで、学習の様子をリアルタイムで把握し、教師の個別指導につなげることが重要です。

「絆」の授業支援機能として「学習状況把握機能」があります。図 1-9 は、学習中の児童生徒が作成した、「ノート数」「投稿数」「レポート作成数」「(自分のフォルダの)フォルダ容量」が一覧できる「学習のようす」です。

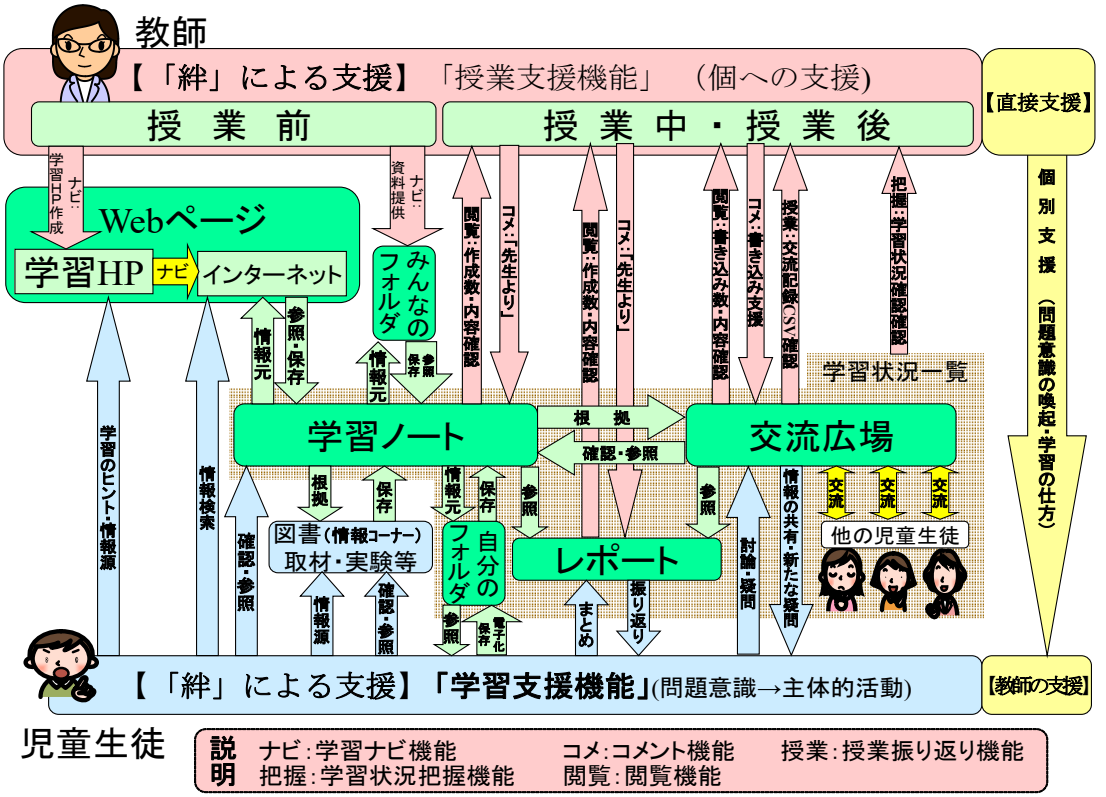
これまでの学習での累計に加え、今日の作成(投稿)数が表示されます。一見しただけで、児童生徒の学習の様子が把握でき、作成(投稿)の少ない児童生徒を見つけることができます。教師は、これらの情報をもとに、学習が停滞してる児童生徒や課題からそれた学習を行っている児童生徒に対し、個別に支援することができます。

「絆」を活用した学習は、図Ⅰ-8「絆を活用した学習と支援」で示したとおり、「絆」での様々な学習支援機能とともに、授業支援機能を生かして教師が個別学習を行うことにより、「探求的学習」が展開されると考えています。

教師とコンピュータがそれぞれ補いながら児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」つなげてほしいと考えます。

Ⅰ　「絆」を活用した学習

14「絆」を活用した学習と支援



図Ⅰ-10 絆を活用した学習と支援

「絆」では、次のような学習活動が展開されます。

・学習 HP で示された「Web ページ」や児童生徒が検索した「Web ページ」を閲覧する。
・児童生徒が見つけた情報を「学習ノート」に取り込んで保存する。
・「学習ノート」を情報源として元の「Web ページ」を表示し詳細を調べる。
・デジタルカメラ等のデータを「自分のフォルダ」に保存する。
・「自分のフォルダ」の画像データに必要な情報を書き込んで「学習ノート」に保存する。
・「交流広場」で他の児童生徒と議論する。
・「交流広場」での議論の論拠として「学習ノート」を活用する。
・他の児童生徒から論拠として示された「学習ノート」を閲覧する。

児童生徒は、自らの問題意識や疑問を解決するため、主体的に機能を選択し、それぞれの機能を繋げながら学習を進めていきます。しかし、問題意識に乏しかったり、学習の進め方がわからない児童生徒に対しては、個別支援を行う必要があります。

Ⅰ　「絆」の概要

15「絆」での学習①　言語力育成

児童の言語力育成については、学習指導要領の柱の一つです。「絆」での学習は、言語力の育成を強く意識して作成されています。単に、「読むこと」「書くこと」だけにとどまりません。以下のような活動を通して言語力が育成すると考えられます。

図Ⅰ-11　学習ノート（※著作権保護のため一部を消しています）

Web ページや図書情報の保存は、学習ノートで行います。学習ノートは Web ページとの相性が良く、「書かれていること」や写真をドラッグアンドドロップでコピーしたり元の Web ページを表示することができます。

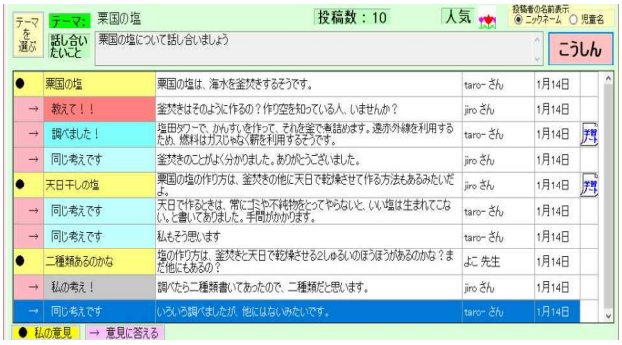
「タイトル」「書かれていること」「資料を見て思ったこと」の必須三項目がすべて入っていなければ保存できません。

タイトルは、学習ノートの「見出し」となります。書かれていることを２０文字以内で要約し入力する必要があります。

「書かれていること」は、Web ページからであれば手軽にドラッグアンドドロップができます。しかし、２００文字までしか入力できませんので、目的とする情報を読み取り、大事な部分を選択してコピーする必要があります。また、「資料を見て思ったこと」には、児童生徒なりの意味づけを付け加えます。

交流広場では、相手の意見に正対した「つなぎ言葉」を示したり、テーマや相手の投稿に対して調べたり、同意や付け足し、反論したりします。

学習ノートの作成や交流広場での議論を通して、文書の読み取り、大事な部分の抜き出し、情報への意味付け、相手の意図の読み取り、自分の考えとの比較や書き込みなどを行うことで、児童生徒の言語力の育成が図られます。



図Ⅰ-12　「交流広場」の画面（再掲）

16「絆」での学習②情報モラルの指導

児童生徒が「交流広場」を使って学習を進める際は、「ニックネーム」を活用することができます。ニックネームは、児童生徒が好きに付けることができ、他の児童生徒から書き込んだ児童生徒の名前がわからないようになっています。ニックネーム機能は、自分の名前が他の児童生徒からわからないことで、発言が苦手な児童生徒でも自信を持って書き込みができるよう配慮したものです。しかし、匿名性が高くなることで、児童生徒の中には他の児童生徒を誹謗中傷するような書き込みが起こる可能性が高まります。現実のインターネット環境でも、匿名性のため数多くの誹謗中傷があります。

学習指導要領では、「情報モラル」の指導の必要性が指摘されています。もし、「絆」の活用中に誹謗中傷等の書き込みが起こった場合は、現実の問題として「情報モラル」に関する指導の場が必要です。

※　教師画面では、ニックネームと児童生徒名を選択して表示する機能があり、書き込みをした児童生徒を特定できます。

17「絆」での学習③ 学習環境の工夫

「絆」の情報収集の方法として、図Ⅰ-3 のように、インターネット上のデータや、取材・実験・観察、教科書・資料集など多岐にわたります。しかし、教科や学習課題によっては、子どもたちの活動を考え、学習環境を整備することで様々な探求に活用することもできます。例えば、課題を解決するのに必要な図書資料、パンフレット、CD や DVD、実物等を学習する教室に設置し、児童生徒が自由に閲覧できるようにすることも考えられます。

図Ⅰ-13 教材コーナーの例

資料を収集ため、学校図書館や公立図書館との連携等も考えられます。

また授業展開での工夫も重要です。「めあての設定」や「学習のまとめ」「振り返り」などで紙のワークシートを活用し、児童生徒が実際に発表したり書き込んだりする学習を行い、「絆」から離れた授業展開を工夫することも考えられます。

主体的・対話的で深い学びを実現するため、教科等横断的な学習や単元等の学習のまとまりの中で「絆」の有効的な活用の方法を探ることも重要です。また、交流広場での交流をＣＳＶファイルに書き出す機能をうまく活用し、評価情報としてどう生かせるかをなどについて研究を深め、効果的に実践していくことが望まれます。

「絆」での実践はまだまだ少ないのですが、多くの可能性が詰まったソフトウェアだと確信しています。多くの先生方が情報を共有し学習環境を工夫することで、**児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」につなげてほしいと願っています。**

Ⅱ章

「絆」の概要

１「絆」の利用形態
２ 必要な機器構成と制限
３ 対象者と機能
４ 単元と公開範囲、期限
５ ユーザーIDとパスワード

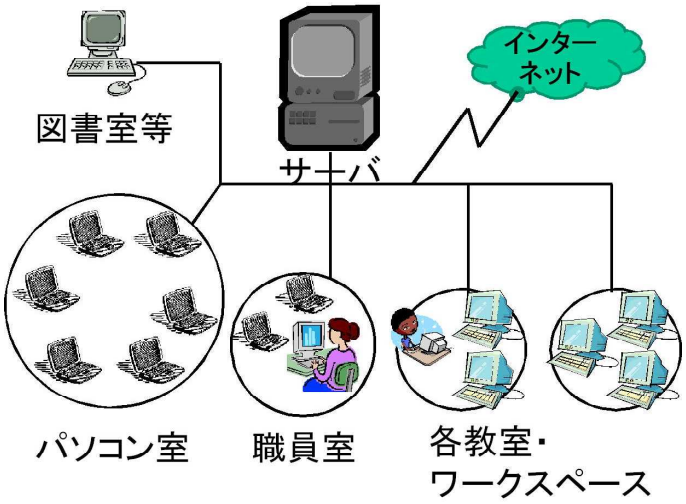
この章では、学習活動支援ソフト「絆(小学校)」「絆(中学校)」(以下「絆」)の概要を説明します。

「絆」の利用形態、活用する際の基本的事項等について記載されています。

「絆」をインストールする前に、是非お読みください。

Ⅱ　「絆」の概要

1「絆」の利用形態



図Ⅱ-1　「絆」システムと校内ＬＡＮ

「絆」は校内 LAN を活用したサーバ・クライアント型のソフトウェアです。児童生徒や教師の作成したデータは、使用したパソコンではなく全てサーバに保存されます。また、児童生徒や教師の識別は ID とパスワードによって行われるため、校内 LAN につながっているパソコンであれば、パソコン室や教室、図書室、職員室等、場所を選ばずどのパソコンでも学習したり各種設定を行ったりできます。

データを蓄えるサーバは、サーバ専用機を推奨します。また、学習用パソコンからフルアクセス(読み込み、書き込み)できることが必要です。(サーバ専用機以外でも動作しますが、不安定になることがありお勧めできません。)また、サーバ専用機にデータフォルダを保存しますが、インストールや設定等の必要ありません。

学習用パソコンは、ＯＳが Windows Vista、Windows 7、Windows8.1、Windows10 であれば特別なソフトをインストールする必要がありません。
(ただし、Microsoft NetFramework2.0(無償)が必要な場合があります。)

また、それぞれの学習用パソコンには、レジストリという特殊な場所にデータフォルダの場所を設定する必要があります。この設定は、「絆」を最初に起動した際に表示されるダイアログに従って一度だけ設定するだけで済みます。

このように、「絆」は専門的な設定を極力避けるとともに、どの学校でも新たな投資をすることなく導入できるよう工夫されています。

※学習用パソコンに復元ソフト等が入っている場合、再起動したとき「絆」ファイルや設定したレジストリデータが消えることがあります。この場合は、教育委員会と相談し復元ソフト等をいったん解除して設定する必要があります。

※「絆(小学校)」と「絆(中学校)」は別のシステムです。両システムは、ほぼ同じ機能を持っています。

※小中学校の場合は、両システムを、同じコンピュータにインストールして使うことができます。その場合は、小学校と中学校のそれぞれの設定が必要です。

Ⅱ　「絆」の概要

２　必要な機器構成と制限

「絆」に必要なコンピュータ等の構成は、次に示す通りです。

○学習用パソコン　ＯＳが、Windows であること。

・ﾀﾌﾞﾚｯﾄＰＣ等　【Windows Vista、Windows 7、Windows8.1、Windows 10】
インターネットに接続され、かつ、サーバ等にアクセス出来ること。
解像度が、ＸＧＡ(1024 × 768 ドット)以上であること。
学習する児童生徒の数だけあることが望ましい。

○サーバ等　学習用パソコンから読み込み、書き込みできるサーバ等。
(パソコンでは、動作が不安定になることがあります)
児童生徒の動画や静止画等のファイルが保存をできる空容量。

「絆」のシステム範囲は以下の通りです。

○システム範囲　学校内で活用し、データの有効期限は１年間(４月～翌年３月)
※年度をまたいでのデータの共有はできません。
※４月にすべてのデータを消去し、教師や児童等のデータを入れ直す必要があります。

○対象学級　小学校用・中学校用共に１学年９クラスまで。

○対象者
・システム管理者(１人)
・教師(担任、担任外)
・１学級の児童生徒数は１学級４５人まで(転出入者を含む)

○その他の制限

項目	制限値	備考
児童生徒名	20 文字以内	
教師名	20 文字以内	
児童生徒ＩＤ	4 桁の数字	上位２桁は学年学級、残り２桁は学級番号が入る。例:6112(6 年 1 組 12 番)
教師ＩＤ	10 文字以内	
学習 HP のファイル名	40 文字以内	
しおり	３文字以内	学習ノートで活用。最大４枚設定
つなぎ言葉	８文字以内	交流広場で活用。２～６つ設定

※児童生徒のパスワード、教師のパスワードは、それぞれのＩＤと同じ数字と文字が初期設定で与えられます。

Ⅱ　「絆」の概要

3　対象者と機能

「絆」の対象者は、「システム管理者」「教師(担任、担任外)」「児童生徒」です。それぞれには役割があり、使える機能が制限されています。

システム管理者　　システムの初期設定、教師名簿作成等を行ないます。
学校に一人しか設定できません。

教師(担任、担任外)　システム管理者が、「教師名簿の作成」機能で登録します。
「担任」と「担任外」があります。使える機能が若干違います。

児童生徒　　担任教師が登録します。主に学習機能を使うことができます。
１学級の児童生徒数は､転出入者を含め４５人まで登録できます。

※「絆(小学校)」では対象が児童、「絆(中学校)」では対象が生徒になります。

表Ⅱ-1 対象者ごとの機能一覧

機　　能		ｼｽﾃﾑ管理者	教師 担任	教師 担任外	児童生徒
学校基本情報の変更		○	×		×
教師名簿の作成とﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ初期化		○	×		×
データ消去(初期化)		○	×		×
個人認識	ID､名簿作成者	－	システム管理者		担任
	ID、初期ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ	Kizuna(ID 変更不可)	半角英数 10 文字以内		数字 4 桁※1
	ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの変更	○	○		○
	ﾆｯｸﾈｰﾑの設定	×	×		○
公開範囲	初期値	×	学級内	学校全体	学級内
	学級	×	全学級		自学級
	学年	×	全学年		自学年
	学校全体	×	○		○
児童生徒名簿作成とﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ初期化		×	担当学級	×	×
単元設定		×	○		×
学習支援機能	学習 HP、Web ページ	×	○		○
	学習ノート	×	○		○
	交流広場	×	○		○※2
	投稿者の名前表示	×	名前のみ		名前､ﾆｯｸﾈｰﾑ※3
	レポート	×	○		○
	フォルダ	×	○		○
学習状況一覧表(学習のようす)		×	○		×

※１　児童生徒のＩＤは、上位２桁が学年学級、下位２桁が児童生徒番号となります。
※２　テーマの作成は、単元設定時に使用を認めた場合に適用(教師は作成可)
※２　単元設定時に「ニックネーム」の使用を認めた場合に適用(認めない場合は名前表示)

Ⅱ　「絆」の概要

4　単元と公開範囲、期限

図Ⅱ-2 児童のメニュー画面

「絆」のデータは単元によって分けられます。

「学習 HP」「学習ノート」「交流広場」「みんなのフォルダ」「レポート」等のデータは、児童生徒が学習する単元のみで表示され、別の単元では表示されません。これは、児童生徒が学習している単元以外のデータを隠蔽し、単元に特化した学習を行なうためです。

単元の公開範囲は、「学級内」「学年内」「学校全体」の三種類に分かれています。公開範囲は、教師が単元を登録する際に設定します。児童生徒は、メニュー画面から、公開範囲を選択し公開範囲で登録されている単元を選択します。

「学級内」・・・対象学級内のデータを共有します。

> ※他の学年・学級にその単元は公開されません。
> 　教師メニュー、児童生徒メニュー画面で、学級内ラジオボタンで選択し、学年・学級を指定します。

「学年内」・・・対象学年内のデータを共有します。

> ※同学年の他のクラスとみんなのフォルダ、交流広場の情報を共有ができます。
> 　教師メニュー、児童生徒メニュー画面で、学年共通ラジオボタンで選択し、学年を指定します。

「学校全体」・・学校全体で情報を共有します。

> ※学校全体でみんなのフォルダ、交流広場の情報を共有ができます。
> 　教師メニュー、児童生徒メニュー画面で、学校全体ラジオボタンで選択します。

システム内に登録された全データ（システム管理者のユーザー ID、パスワードを除く）は、その年度内のみ有効です。新たな年度では、これまでのデータをすべて削除し初期化しなければいけません。年度更新の作業は、システム管理者が毎年度初めに行い、教師名等から順次入力する必要があります。

Ⅱ　「絆」の概要

5　ユーザーIDとパスワード

ユーザー ID は、ユーザーを識別する際に重要なものです。

システム管理者のユーザー ID は、「**Kizuna**」とシステムで規定され、変更できません。

教師の **ID** は、システム管理者が登録します。半角英数１０文字以内で、２人が同じ ID を登録することができません。（ID は、大文字と小文字を区別します。）

児童生徒の **ID** は、担任が児童生徒名を登録する際に自動的に付与されます。児童生徒の ID は、数字４桁で最初の２桁が「学年」「組」、残る２桁が児童名簿の順番となります。

（例：６年１組５番目の児童「６１０５」）

パスワードは、初期状態ではユーザー **ID** と同じものが自動的に登録されます。

パスワードを変更する場合は、それぞれのユーザーが「パスワードの変更」で行うことができます。

児童生徒のパスワードの変更は、１日に２回以上行えないように設定されています。それは、児童生徒が頻繁にパスワードを変更し、正しいパスワードを認識できなくなるのを防ぐためです。

パスワードを忘れてしまいログインできなくなった場合は、その名簿を作成したユーザー(教師の場合はシステム管理者、児童生徒の場合はその担任教師)が名簿入力画面でパスワード初期化(パスワードをログイン ID に戻す)することができます。ただし、システム管理者のパスワードは初期化することはできません。（システム管理者のパスワードは、システム管理者モードで修正して下さい）

表Ⅱ-2 対象者ごとのIDとパスワード

対象者	ID	名簿登録・ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ初期化者	備　　考
管理者	Kizuna	ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの初期化は不可	管理者(ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ変更可)
教師	半角英数10文字以内	管理者	
児童生徒	学年･組･学級番号	教師(担任のみ)	ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ変更は１日１回まで

※「ID」と「初期パスワード」は同一です。

※「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ初期化者」とは、パスワードを初期状態(ID と同一)に戻せる権限者です。

Ⅲ章

インストール

１　インストールの概要
２　システムのインストール①
３　システムのインストール②
４　システム設定①　基本情報入力
５　システム設定②-1　教師名簿登録①
６　システム設定②-2　教師名簿登録②
７　授業設定①　児童(生徒)名簿の登録
８　授業設定②　単元の設定
９　一台のパソコンで使用する場合

この章では、「絆」のインストールと、模擬データを活用した動作確認について説明します。

「絆」は教師のアイディアで様々な学習場面で活用できます。そのため、「絆」には様々な機能がありますが、この章では「絆」を活用して「授業」を行うために最低必要な事項についてのみ説明し、そのほかの機能については次章以降で行います。

この説明の中で、「教師名簿」と「児童(生徒)名簿」が必要になります。動作確認では、名簿ファイルにそれぞれ例示用データがありますのでそれを活用することができます。

小学校用と中学校用は同じ方法で設定できます。ここでは、小学校用を中心に説明します。

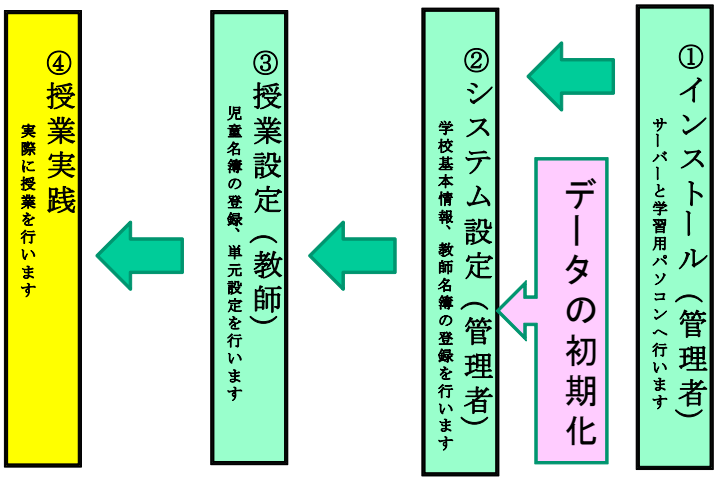
※学習用パソコンが１台で基本機能のみを確認するだけであれば、そのパソコンにデータベースフォルダをコピーし、デスクトップにアプリケーションをコピーして確認することができます。

※本運用する際は、「システム管理者」モードでログインし、「データの初期化」を行ってから再設定して下さい。

Ⅲ インストール

1 インストールの概要

「絆」を授業で活用するためにはインストールと設定が必要です。この作業は、大きく分けて次の３つから構成されます。



図Ⅲ-1 インストールの概要

①システムのインストール

サーバーと学習用パソコンへデータとシステムをインストールします。この作業は、情報担当やコンピュータ主任等が、「システム管理者」としてログインし、最初の一回のみ設定を行います。

②システムの設定

学校基本情報、教師名簿の登録等を行います。この設定は、「システム管理者」の権限で行います。新年度処理のため<u>データの初期化を行った時は、この作業から始める</u>ことになります。

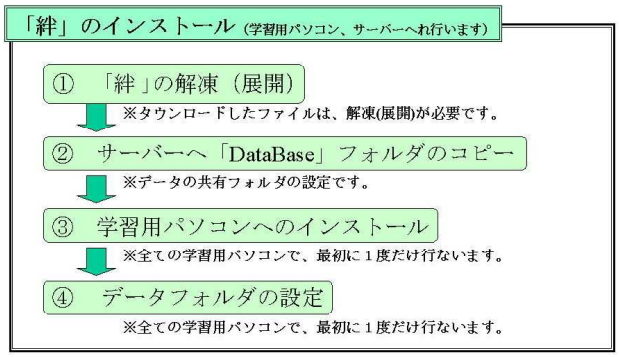
③授業設定

学級担任は、担当する学級の児童(生徒)名簿の登録を行います。児童(生徒)名簿の登録が済むと担任や担任外教師が単元を設定することができます。

単元設定が済むと、授業を行うことができます。

Ⅲ インストール

2 システムのインストール①



図Ⅲ-2 システムのインストールの手順

①「絆」の解凍（展開）

「絆」は、zip 形式で配布されます。『絆 Ver2.1（小学校）』ファイルを右クリックし、「全て展開」を選択します。「圧縮フォルダ展開ウィザードの開始」が表示されます。そこで、「次へ」を押すと展開されます。

図Ⅲ-3「絆」の解凍

展開された、「絆（小学校）」フォルダには、以下のフォルダやファイルがあります。

絆 Ver2.1（小学校）.exe（ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ）‥デスクトップにコピーします。（小学校用）
DataBaseV2E（フォルダ）　‥‥データベースフォルダ（小学校用）
入力補助 V2.x（フォルダ）　‥‥教師入力及び児童生徒入力用 EXCEL ファイル

展開された、「絆（中学校）」フォルダには、以下のフォルダやファイルがあります。

絆 Ver2.1（中学校）.exe（ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ）‥デスクトップにコピーします。（中学校用）
DataBaseV2J（フォルダ）　‥‥データベースフォルダ（中学校用）
入力補助 V2.x（フォルダ）　‥‥教師入力及び児童生徒入力用 EXCEL ファイル
※絆システムは、『絆 Ver2.1（小学校）』、『絆 Ver2.1（中学校）』です。
※データベースフォルダは、「絆（小学校）」の場合「DataBaseV2E」、「絆（中学校）」の場合「DataBaseV2J」となります。

②サーバ等へ「DataBaseV2E（DataBaseV2J）」をコピー

データを格納するためのエリアを設定します。

学習用パソコンから共有されているサーバー等に、「**DataBaseV2E（DataBaseV2J）**」フォルダをコピーします。

「**DataBaseV2E（DataBaseV2J）**」フォルダは、いくつかのファイルやフォルダで形成されています。ファイルやフォルダを削除したり、名前を変えたりしないで下さい。「絆」からアクセスできなくなります。

ここでいうサーバ等とは、学習用パソコンからフルアクセス（読み込み、書き込み）ができることが条件です。

ただし、学習用パソコンが１台で基本機能のみを確認するだけであれば、そのパソコンにデータベースフォルダをコピーし、デスクトップにアプリケーションをコピーして確認することができます。（Ⅲ-9 一台のパソコンで使用する場合 参照）

Ⅲ　インストール

3 システムのインストール②

③学習用パソコンへのインストール

<u>※全ての学習用パソコンで、最初に１度だけ行ないます。</u>

学習用パソコンのテスクトップに、絆 2.1(小学校).exe(絆 2.1(中学校).exe)をコピーします。

④データフォルダの設定

<u>(※全ての学習用パソコンで、最初に１度だけ行ないます。)</u>

それぞれの学習用パソコンは、前ページで示したデータフォルダ **DataBaseV2E (DataBaseV2J)**のデータを共有します。

データフォルダの場所を学習用パソコンに憶えさせるのが、「データフォルダの設定」です。

「絆」を起動すると、学習用パソコンから「データフォルダ」と呼ばれるフォルダの指定を要求されます。

図Ⅲ-4 のような画面が出たら、「フォルダ選択」ボタンを押して、データフォルダを指定します。

図Ⅲ-4 データフォルダの設定

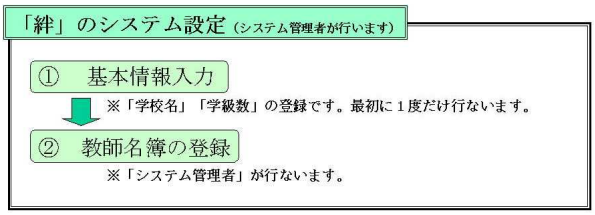
データフォルダ「**DataBaseV2E(DataBaseV2J)**」フォルダを指定します。 別のフォルダを指定した場合は、「フォルダの設定が違います。」のメッセージが表示され、「Ok」ボタンが表示されません。その場合、もう一度フォルダ選択を行って下さい。きちんとフォルダ選択ができると、「Ok」ボタンが表示されるので、それを押すと終了です。

※この操作で、学習用パソコンには、<u>レジストリと呼ばれる特殊な領域にデータフォルダの情報が記憶</u>されます。２度目の起動以降は、データフォルダの情報を読み取り、データベースにアクセスします。

Ⅲ インストール

4 システム設定① 基本情報入力

インストールが済むとシステムの設定に移ります。システム設定には、「基本情報入力」と「教師名簿の設定」があります。



図Ⅲ-5　「絆」のシステム設定の手順

①基本情報設定（<u>※最初に１度だけ行ないます。</u>）

データフォルダ設定後に、基本情報設定の画面が現れます。

まず、学校名及び学年別学級数を登録します。

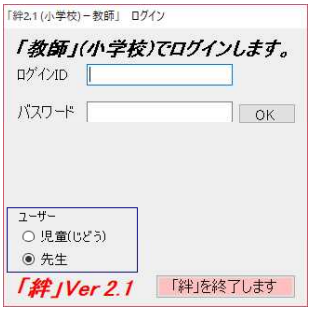
登録された学級数は、学級担任登録の基礎データとなります。また、学級数が「０」の学級は、学級担任を登録することができません。

図Ⅲ-6 学校基本情報の設定（小学校）

この設定は、データベースに行ないますので、一台の学習用パソコンで設定すると２台目以降行なう必要がありません。また、一度設定した基本情報は「システム管理者」の権限で変更を行なうことができます。

Ⅲ インストールと試用

5 システム設定②-1 教師名簿登録①



図Ⅲ-7 ログイン画面

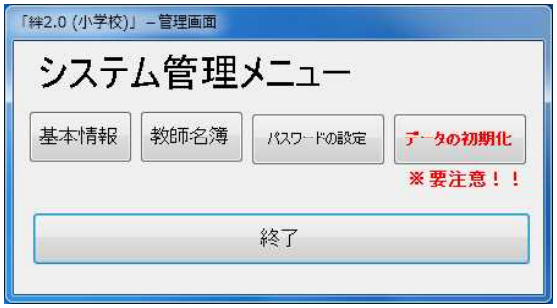
教師名簿の登録は、「システム管理者」の権限で行ないます。

まず、ログイン画面で<u>ユーザーを「先生」に設定</u>し、ログイン ID とパスワードをともに「Kizuna」と入力します。パスワードは、「******」と表示されますが、「Kizuna」と入力します。（入力した文字は、大文字と小文字を区別します。一文字目の「K」のみ大文字で入力します。）

入力後、「OK」ボタンを押すと「システム管理者　ですね」と表示され、「はい」のボタンを押します。

「ログイン ID またはパスワードが違います。」というメッセージが表示された場合は、もう一度入力して下さい。

システム管理者権限でログインすると、「基本情報」「教師名簿」「パスワードとニックネームの設定」「データ初期化」の四つのメニューが選択できます。ここでは、その中から「教師名簿」を選択します。



図Ⅲ-8 システム管理メニュー画面

図Ⅲ-9 教師名簿画面

教師名簿は、システム管理者のみが登録できます。

教師名簿を初めて登録するときは、直接名前を入力するのではなく、専用のエクセルワークシートを活用します。

入力については、次ページで解説します。

Ⅲ インストールと試用

6 システム設定②-2 教師名簿登録②

教師名簿を初めて登録するときは、専用のエクセルファイルを活用します。それは、誤入力を防ぐとともに名簿等のエクセルデータを有効に活用することができるようにするためです。**エクセルファイルは必ず「入力補助」フォルダ内の「教師名簿」を活用して下さい。**教師名簿は、「教師名簿 V2.x（小学校用）」及び教師名簿 V2.x（中学校用）が別々に用意されています。

小学校用の教師名簿（例）は、図Ⅲ-10 のようになっています。実際の教師名簿を作成する際も、この形式で作成します。

教師名簿には、教師一人一人について「ログイン ID（10 文字以内）」「学年」「学級」「名前（20 文字以内）」を入力します。

「ログイン ID」は、教師を識別するものです。同じ ID を２度使うことはできません。全て別のログイン ID を割り振って下さい。

図Ⅲ-10 教師名簿エクセルﾜｰｸｼｰﾄ（例）

「学年」は、担任する学年、学級を選択します。担任外（管理職を含む）は、「学年」の項目を「担任外」とし学級は「未入力」にします。

すべての項目を入力すると、エクセルファイルをコピーします。図Ⅲ-10 の例は、１番のログイン ID の「yoko」から１４番の名前「与儀 次郎」までを指定してコピーしたところです。

コピーが済むと、　教師名簿画面の「エクセル表から貼り付け」ボタンを押します。すると、図Ⅲ-11 のようにデータが貼り付けられます。

貼り付けが済むと、「登録する」ボタンを押し、システム管理メニューを終了します。

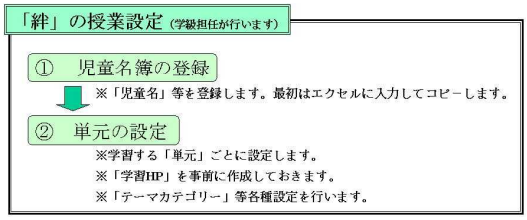
※エクセルデータに不備があると、貼り付ける際にメッセージが表示されます。メッセージに従い、エクセルデータを修正し、貼り付けを行ってください。

図Ⅲ-11 教師名簿画面②

Ⅲ　インストールと試用

7 授業設定①　児童(生徒)名簿の登録

システム設定が済むと「授業設定」を行ないます。授業設定には、「児童(生徒)名簿の登録」と「単元の設定」があります。



図Ⅲ-12 授業設定の手順

①学級担任でログイン

「授業設定」は、「学級担任」が行ないます。

再度「絆」を立ち上げ、「教師名簿」で登録した学級担任のログイン ID 使ってログインします。

試用の場合は、ID パスワード共に「yoko」と入力します。

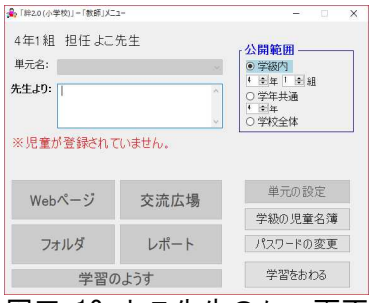
※ログインの仕方は、システム設定②-1 と同じ要領で行います。

ID パスワード共に「yoko」でログインした場合は、「4 年 1 組　担任　よこ先生」の画面が表示されます。

(教師名簿を「小学校用：例」で登録した場合)

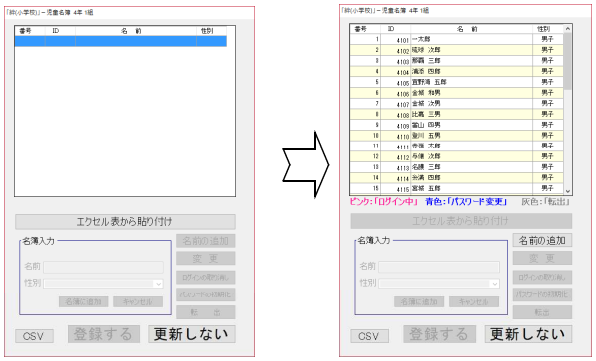
「学級の児童名簿」ボタンを押します。

(中学校は、「学級の生徒名簿」)

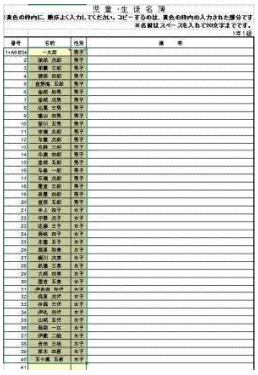


図Ⅲ-13 よこ先生のﾒﾆｭｰ画面

②児童(生徒)名簿の登録(担任教師の学級のみ登録できます)



図Ⅲ-14 児童(生徒)名簿登録画面



図Ⅲ-15 児童・名簿ｴｸｾﾙﾌｧｲﾙ(例)

児童(生徒)名簿は、教師名簿と同じように最初に学級を登録する時は、エクセルワークシートに入力し、それを貼り付けます。**エクセルワークシートは必ず「入力補助」フォルダ内の「児童(生徒)名簿」を活用して下さい。**例のように、エクセルワークシートに名前と性別を入力します。一番児童生徒の「名前」から最後の児童(生徒)の「性別」まで選択し、コピーします。その状態で、児童(生徒)名簿の「エクセル表から貼り付け」ボタンを押すと、名前が張り付きます。

※児童(生徒)の「ログイン ID」について

児童(生徒)のﾛｸﾞｲﾝ ID は、数字４文字で構成され自動的に付加されます。最初の２桁が「学年」「学級」となります。残り２桁が「番号」となります。ﾛｸﾞｲﾝ ID は変更できません。　　例：５年３組３番→「５３０３」　　６年２組１２番→「６２１２」

※児童(生徒)の「パスワード」は、初期設定ではﾛｸﾞｲﾝ ID と同じ番号が割り振られます。

Ⅲ インストールと試用

8 授業設定② 単元の設定

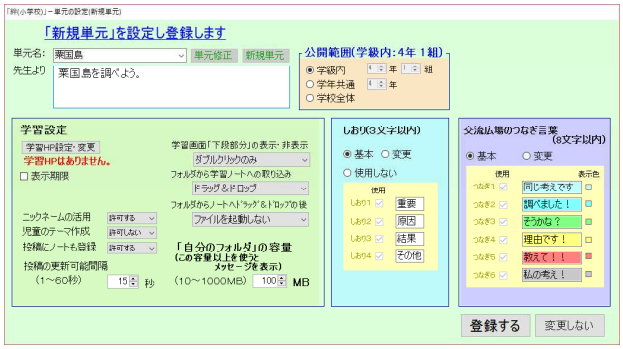
授業を行う際には、前もって「単元設定」を行います。

教師画面より単元の設定を押すと、単元設定画面が表示されます。単元設定では、以下の通りに設定を進めていきます。

(以下小学校を例に記述します)

1) 公開範囲

公開範囲は、「学級内」「学年内」「学校全体」の３種類があります。該当する範囲のラジオボタンをチェックします。試用においては、「学級内(4 年 1 組)を設定します。



図Ⅲ-16 単元登録画面

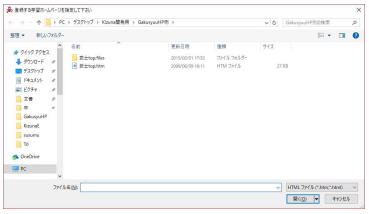
2) 「単元名」と「先生より」の入力

新規単元ホタンをクリックし「単元名」「先生より」を入力します。

「先生より」は、単元名とともに児童生徒用画面に表示され、児童生徒の学習の動機付けになります。

3) 学習ホームページ

ワープロソフト等で作成し、HTML 形式で保存した「学習ホームページ」を設定することができます。「学習ホームページ」を設定することにより、WEB ページで「学習ホームページ」を表示し学習を行うことがができます。試用においては、「HP 例」フォルダの「武士」を指定します。



図Ⅲ-17 学習HPの選択

4) 表示期限

単元をいつまで表示するかの期限を設定できます。期限を設定すれば、期限以降は、単元名が表示されなくなります。

5) 「しおり」「つなぎ言葉」

それぞれの詳細な設定ができます。初めて「絆」を活用する場合は「基本」の設定にすることをおすすめします。

ここまでの設定で、基本的な設定は修了です。先に登録した児童生徒の ID でログインすると、設定した単元が表示されます。教師と、児童生徒に別れて模擬学習を行い、「絆」の様々な機能を使いながら、授業での活用について話し合っていただければ幸いです。

本運用を行う際には、「システム管理者」権限で「データの初期化」を行い、「システム設定」より、設定し直してください。

9 一台のパソコンで使用する場合

一台のパソコンのみで動作確認等を行う場合は、より簡便に設定することができます。
この場合は、サーバー等を使う必要が無く、お手持ちの Windows パソコンだけで行うことができます。

手順１

絆 Ver2.1(小学校).exe　または、 絆 Ver2.1(中学校).exe　をデスクトップにコピーします。

手順２

DataBaseV2E(フォルダ)　または、 DataBaseV2J(フォルダ)　をパソコンにコピーします。(特にデスクトップ上にコピーする必要はありません)

※データベースフォルダは、「絆(小学校)」の場合「DataBaseV2E」、「絆(中学校)」の場合「DataBaseV2J」となります。

手順３

Ⅲ-3(p28)に記載されている「データフォルダの設定」以降の設定を行います。

Ⅳ章

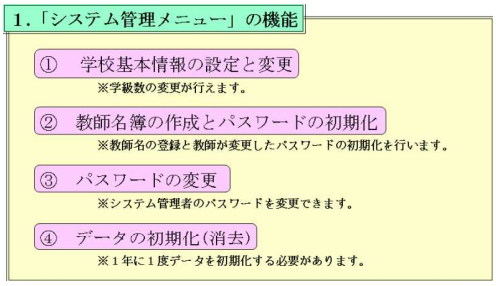
対象者毎のメニュー画面と機能

１　システム管理メニューの機能
２　教師メニューの機能①
３　教師メニューの機能②
４　児童生徒メニューの機能①
５　児童生徒メニューの機能②

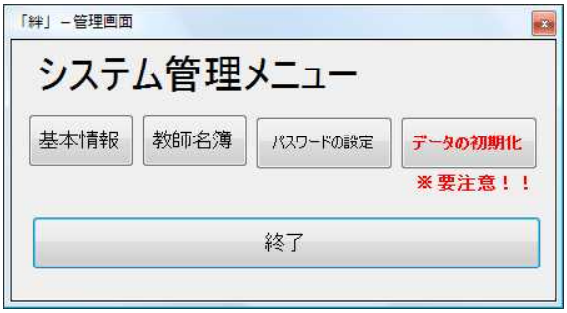
「絆」の対象者は、「システム管理者」「教師(担任・担任外)」「児童生徒」の３種類の対象者があり、それぞれ役割と機能が異なります。
「絆」は、ログインが済むと、それぞれの対象者毎に異なる「メニュー画面」が表示されます。すべての操作は、メニュー画面にある機能を活用して行います。
　この章では、対象者毎のメニュー画面を表示しその機能の概要を紹介します。

Ⅳ 対象者毎の機能一覧

1 システム管理メニューの機能



図Ⅳ-1 システム管理メニューの機能



図Ⅳ-2 システム管理メニュー画面

システム管理メニューは、システム全体のメンテナンスを設定するメニューです。ログインする方法は、「システム設定②-1」で示したとおりログイン ID とパスワード共に「Kizuna」(初期値)と入力します。

システム管理メニューは、以下の４つの機能があります。

①学校基本情報の変更

学校基本情報は、インストールの時点で設定します。(システム設定①参照)

年度途中で、学級数やログ取得情報を変更する場合に活用します。

②教師名簿の作成とパスワードの初期化

教師名の登録とパスワードの初期化、教師のログイン情報の取り消し等に活用します。

「絆」は、同じユーザーが同時にログインできない仕組みになっています。

教師が「絆」を使用中に異常終了した場合、サーバーにその教師のログイン情報が残っていて、次にログインしたとき**「すでにログインしています。」**というメッセージが表示され、ログインできなくなることがあります。その際、**「ログインの取り消し」**を設定すると、サーバーのログイン情報が消えて、ログインできるようになります。

③パスワードの変更

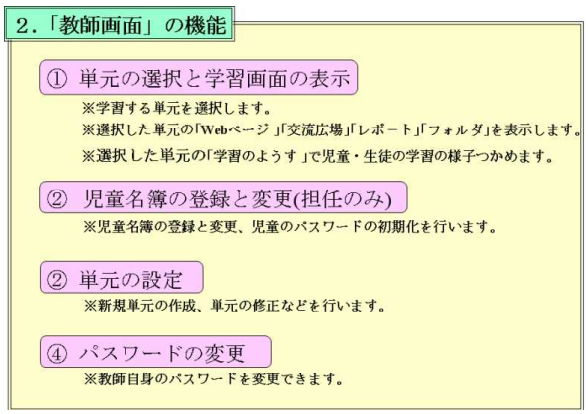
システム管理者のパスワードを変更します。

④データの初期化(消去) **※要注意**

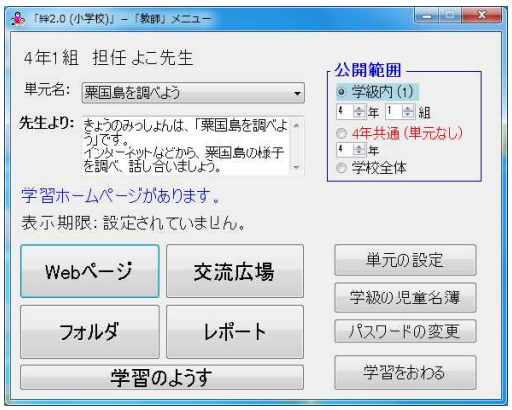
「絆」のデータは、１年限りです。新年度処理等でデータを初期化する際に活用します。システム管理者のログインＩＤ、パスワード以外の全データを消去します。

Ⅳ 対象者毎の機能一覧

2 教師メニューの機能①



図Ⅳ-3 教師画面の機能



図Ⅳ-4 教師画面

教師画面は、教師が授業準備や授業のようすを把握するために必要な機能が選択できるようになっています。

具体的な機能として、「単元の選択と学習画面の表示」「児童(生徒)名簿の登録と変更」「単元の設定」「パスワードの変更」です。

① 「単元の選択と学習画面表示」

上部に「公開範囲」の部分があり、公開範囲を選択することにより公開範囲のカテゴリーの中にある単元名が単元名リストボックスに表示されます。リストボックスから単元を選択することでこれから学習する単元を選択します。

単元が選択されるとの単元の「先生より」が表示されます。さらに、単元情報として「学習ホームページの有無」「単元の表示期限」が表示されます。

また、２種類ある学習画面を選択し、その下の「Web ページ」「交流広場」「レポート」「フォルダ」「学習のようす」ボタンを押すことで、学習画面のそれぞれのタブを表示することができます。

公開範囲の児童生徒が登録されていない場合は、単元情報部に「児童(生徒)が登録されていません」と表示されます。同じように、公開範囲に単元が登録されていない場合は、単元情報部に「単元が設定されていません」と表示されます。どちらの場合も、学習画面選択ボタンが押せなくなります。

3 教師メニューの機能②

②児童(生徒)名簿の登録(対象者が担任の場合のみ)

担任は、受け持つ学級の児童生徒名簿を登録できます。(他の学級は登録できません。)

授業を行うためには、学級の児童(生徒)名簿を登録する必要があります。

③児童生徒のログインの取り消し、パスワードの変更(対象者が担任の場合のみ)

児童生徒が「絆」を使用中に異常終了した場合、サーバーにその児童生徒のログイン情報が残っていて、次にログインしたとき「すでにログインしています。」というメッセージが表示され、ログインできなくなることがあります。その際、児童生徒名簿で「ログインの取り消し」を行うと、サーバーのログイン情報が消えて、ログインできるようになります。

児童生徒はパスワード情報を自由に変えることができます。児童生徒がパスワードを忘れてしまう場合も考えられます。そのような場合には、児童生徒名簿で「パスワード初期化」を行うと、児童生徒のパスワードを元(ログイン ID)に戻すことができます。

④単元の設定と修正

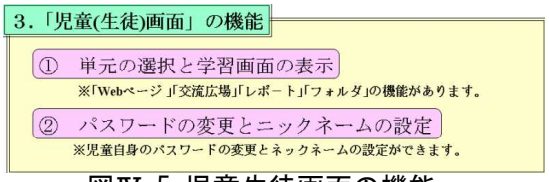
学習を行う前に単元を設定する必要があります。また、設定した単元情報を修正することもできます。

⑤パスワードの変更

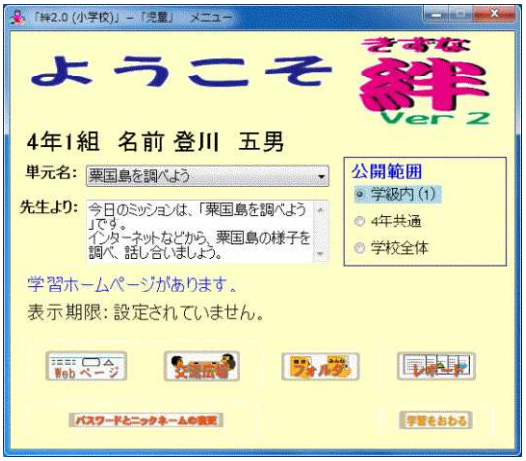
教師のパスワードも児童と同じように初期値がログイン ID と同じ文字列になっています。そこで、運用する際はパスワードを変更して使用することをおすすめします。パスワードの変更は、自由に行えます。また、パスワードを忘れてしまった場合は、システム管理メニュー(システム管理者でログイン)の教師名簿でパスワードを初期値(ログイン ID と同じ文字列)に戻すことができます。

Ⅳ 対象者毎の機能一覧

4 児童生徒メニューの機能①



図Ⅳ-5 児童生徒画面の機能



図Ⅳ-6 児童画面

児童生徒画面は、児童生徒が学習するために必要な機能が選択できるようになっています。

具体的な機能として、「単元の選択と学習画面の表示」「パスワードの変更とニックネームの設定」です。

① 「単元の選択」

上部に「公開範囲」の部分があり、公開範囲を選択することにより公開範囲のカテゴリーの中にある単元名が単元名リストボックスに表示されます。リストボックスから単元を選択することでこれから学習する単元を選択します。

単元が選択されるとの単元の、「先生より」が表示されます。児童生徒は、事前に「学習のめあて」や「学習方法」などを読んで学習を始めることができます。

また、単元情報として「学習ホームページの有無」「単元の表示期限」が表示されます。

② 「学習画面」へのリンク

学習を始める際は、「Web ページ」「交流広場」「フォルダ」「レポート」の画像をクリックします。マウスを画像の上に移動すると、該当する画像が拡大されて表示されます。クリックすることで、学習画面が表示され学習を始めることができます。

③ 「パスワードとニックネーム」

パスワードとニックネームを指定する場合に使用します。学習時の意義付けについては、２０ページをご覧下さい。

④ 「学習をおわる」

学習を終了する際にクリックします。

5 児童生徒メニューの機能②

②パスワードの変更とニックネームの設定

児童生徒のパスワードは初期値がログイン ID と同じ数字(４桁)になっています。そこで、運用する際はパスワードを変更して使用することをおすすめします。パスワードの変更は、自由に行えます。また、パスワードを忘れてしまった場合は、担任の教師メニューの児童(生徒)名簿でパスワードを初期値(ログイン ID と同じ)に戻すことができます。

児童生徒が「交流広場」を使って学習を進める際は、「ニックネーム」を活用することができます。ニックネームは、児童生徒が好きに付けることができ、他の児童生徒からだれの書き込みかががわからないようになっています。(教師は、児童生徒名を表示することができます。)ニックネーム機能は、自分の名前がわからないことで、発言が苦手な児童生徒でも自信を持って書き込みができるよう配慮したものです。

※「パスワードの変更」と「ニックネームの設定」は、１日に１回までしか変更できないようになっています。

※児童生徒の ID については、「Ⅳ章６　学級の児童生徒名簿」を参照ください。

Ｖ章

各画面の機能一覧

１　ログイン
２　学校基本情報設定
３　教師名簿①　初期入力（エクセルファイルからの貼り付け）
４　教師名簿②　追加入力･その他
５　ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの変更とﾆｯｸﾈｰﾑの設定
６　学級の児童生徒名簿
７　単元の設定①　単元名・公開範囲・フォルダ容量
８　単元の設定②　学習設定１
９　単元の設定③　学習設定２
１０　単元の設定④　しおり・つなぎ言葉
１１データフォルダの設定

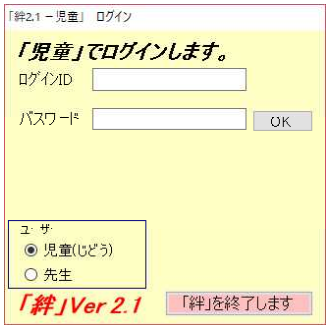
この章では、「絆」の各画面を紹介し、その機能の詳細を説明します。

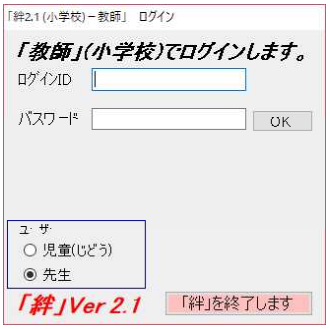
※画面によっては、対象者が限定されるものがあります。タイトルの下に対象者毎の機能欄を設けてあります。表示される対象者は「○」、表示されない場合は「×」が記されています。

Ⅴ 対象者毎の機能一覧

1 ログイン

管理者	○	教師	○	児童生徒	○	備考	





図Ⅴ-1 ログイン画面【絆(小学校)】

ログイン画面は、ログイン ID とパスワードを入力して対象者と個人を確認し、「絆」のメニュー画面へ繋げる画面です。

ログイン画面は、「児童(じどう)」(生徒)と「先生」の２つのモードを持っています。

児童生徒のモードで先生のログイン ID、パスワードを入力してもログインできません。また、その逆もだめです。ユーザーの切替は、「児童(じどう)」(生徒)と「先生」のラジオボタンを切り替えて行います。

管理者モードは、「先生」のモードで入力します。

絆(小学校)では、「児童(じどう)」入力モードは、黄色い画面が表示され、「児童でログインします。」と表示されます。また、先生モードは、灰色の画面が表示され、「先生(小学校)でログインします。」と表示されます。

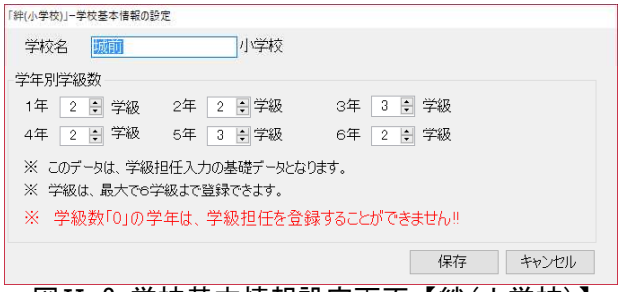
絆(中学校)では、「生徒」入力モードは、水色の画面が表示され、「生徒でログインします。」と表示されます。また、先生モードは、灰色の画面が表示され、「先生(中学校)でログインします。」と表示されます。

※「絆」では、同じ使用者が二重にログインできないよう設定しています。同じユーザー名で別のパソコンからログインしようとすると「すでにログインしています。同じ人が２カ所でログインすることはできません。」と表示され、一度にログインすることはできません。

Ⅴ 対象者毎の機能一覧

2 学校基本情報設定

管理者	○	教師	×	児童生徒	×	備考	「絆」をインストールする際にも表示



図Ⅴ-2 学校基本情報設定画面【絆(小学校)】

学校基本情報の設定は、インストール時に行ないます。しかし、学級数を変更する場合は、システム管理者の権限で、設定変更することができます。

画面の上段部は、学校名の入力・変更部分です。「小学校」「中学校」の文字を除いた学校名を入力します。画面の下段部は、学年別学級数を登録・変更部分です。

登録された学級数は、学級担任登録および各種入力・表示の基礎データとなります。また、学級数が「０」の学級は、学級担任を登録することができません。

Ⅴ 対象者毎の機能一覧

3 教師名簿① 初期入力(エクセルファイルからの貼り付け)

管理者	○	教師	×	児童生徒	×	備考	初期入力はｴｸｾﾙﾌｧｲﾙを活用します

①エクセル表からの貼り付け

Ⅴ-3 教師名簿画面(貼り付け前【左】、貼り付け後【右】の例)【絆(小学校)】

絆を使用する教師を登録します。

教師名簿は、システム管理者のみが登録できます。

教師名簿を初めて登録するときは、直接名前を入力するのではなく、専用のエクセルファイルを活用します。

それは、誤入力を防ぐとともに名簿等のエクセルデータを有効に活用することができるようにするためです。**エクセルファイルは必ず「入力補助」フォルダ内の「教師名簿」を活用して下さい。**教師名簿は、校種によって小学校用と中学校用があります。

小学校用の教師名簿(例)は、図Ⅳ-4のように入力されています。実際の教師名簿を作成する際は、この形式で、教師一人一人について「ログイン ID」「学年」「学級」「名前」を入力します。

「ログイン ID」は、教師を識別するものです。同じログイン ID を２人で使うことはできません。全て別のログイン ID を割り振って下さい。

図Ⅴ-4 教師名簿エクセルファイル(例)

「学年」は、担任する学年、学級を選択します。担任外(管理職を含む)は、「学年」の項目を「担任外」とし、学級は「未入力」にします。

すべての項目を入力すると、エクセルワークシートをコピーします。図Ⅳ-4 の例は、１番のログイン ID の「yoko」から１４番の名前「与儀　次郎」までを指定してコピーしたところです。

コピーが済むと、教師名簿画面の「エクセル表から貼り付け」ボタンを押します。すると、図Ⅳ-3【右】のようにデータが貼り付けられます。

貼り付けが済むと、「登録する」ボタンを押し、システム管理メニューを終了します。

※エクセルデータに不備があると、貼り付ける際にﾒｯｾｰｼﾞが表示されます。ﾒｯｾｰｼﾞに従い、エクセルデータを修正し、コピー貼り付けを行ってください。

4 教師名簿② 追加入力･その他

管理者	○	教師	×	児童生徒	×	備考	

②名前の追加

年度途中の新たな教師の追加など、教師名簿に名前を追加する場合に使用します。「名前の追加」ボタンを押すと、教師名簿入力部分が使用できるようになります。必要事項を入力し、「名簿に追加」ボタンを押します。また、途中で取りやめる場合は、「キャンセル」ボタンを押します。

③ログインの取り消し

「絆」は、同じユーザーが同時にログインできない仕組みになっています。

教師が「絆」を使用中に、コンピュータの電源が切れたりクラッシュしたりするなど、「絆」を終了できない場合は、サーバにその教師のログイン情報が残っていて、次にログインしたとき**「すでにログインしています。」**というメッセージが表示され、ログインできなくなることがあります。その際、ログインを取り消したい教師に合わせて**「ログインの取り消し」ボタンを押すと**、サーバーのログイン情報が消えて、ログインできるようになります。

ログイン中の教師は、名簿が薄いピンク色になっています。「ログインの取り消し」ボタンを押すと、白(薄い黄色)に変わります。

④変更

名前や学年、学級を変更する場合に使用します。「変更」ボタンを押すと、教師名簿変更部分が使用できるようになります。変更箇所を直し、「名簿を変更」ボタンを押します。また、途中で取りやめる場合は、「キャンセル」ボタンを押します。

「ログイン ID」は変更できません。

⑤パスワードの初期化

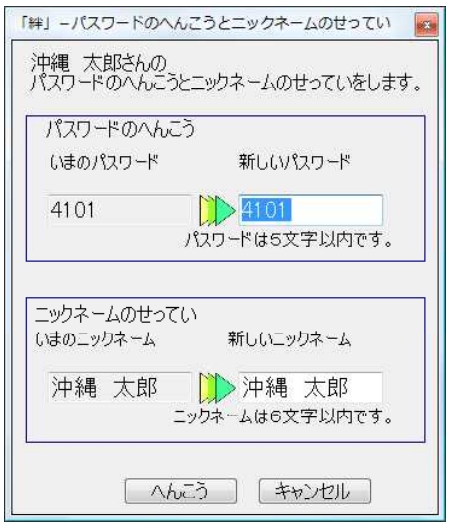
教師が、自分のパスワードを忘れてしまった場合、パスワードを初期化したい教師に合わせ「パスワードの初期化」ボタンを押すと、パスワードをログイン ID に戻すことができます。

※この作業は、授業及び教師の入力のない時に行って下さい。
※この作業を反映させるためには、最後に「登録する」ボタンを押してください。

Ⅴ 対象者毎の機能一覧

5 ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの変更とﾆｯｸﾈｰﾑの設定

管理者	△	教師	△	児童生徒	○	備考	管理者と教師はﾆｯｸﾈｰﾑの設定ができません。



図Ⅴ-5 ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの変更とﾆｯｸﾈｰﾑの設定画面

①パスワードの変更

パスワードは、ログインするための重要な情報です。パスワードの初期値は、ログイン ID と同じ値を持っています。パスワードは、五文字以内であれば、自由に変更できます。

②ニックネームの設定(児童生徒のみ)

児童生徒は、ニックネームを設定できます。ニックネームの初期値は、児童生徒名になっています。ニックネームは、交流広場で意見を出す場合に使用されます。ニックネームを変えた場合、交流広場では他の児童からだれの書き込みかがわかりません。そこで、発言が苦手な児童でも自信を持って書き込みができるよう配慮したものです。

教師は、ニックネームだけでなく児童名を表示する機能があり、書き込んだ児童生徒を特定することができます。

<u>※ニックネームは、他の児童生徒を誹謗中傷するような書き込みが起こる可能性を高めます。</u>現実のエンターネット環境でも、匿名性のため数多くの誹謗中傷があります。学習指導要領でも、「情報モラル」の指導の必要性が指摘されています。<u>仮に、「絆」の活用中にそのようなことが起こった場合は、現実の問題として「情報モラル」に関する指導の場が必要です。</u>

※児童生徒の場合、ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞおよびﾆｯｸﾈｰﾑの変更は１日に１度までの制限があります。

Ⅴ 対象者毎の機能一覧

6 学級の児童生徒名簿

管理者	×	教師	△	児童生徒	×	備考	学級担任は自学級の児童生徒名簿の設定ができます。

学級の児童生徒名簿は、学級担任が自学級の名簿を作成するものです。学級担任でも他の学級の名簿は作成できません。

図Ⅴ-6 児童生徒名簿登録画面

図Ⅴ-7 児童生徒名簿ｴｸｾﾙﾌｧｲﾙ（例）

①エクセル表から貼り付け

児童(生徒)名簿は、教師名簿と同じように最初に学級を登録する時は、エクセルワークシートに入力し、それを貼り付けます。**エクセルワークシートは必ず「入力補助」フォルダ内の「児童生徒名簿」を活用して下さい。**例のように、エクセルワークシートに名前と性別を入力します。一番児童生徒の「名前」から最後の児童生徒の「性別」まで選択し、コピーします。その状態で、児童名簿の「エクセル表から貼り付け」ボタンを押すと、名前が張り付きます。

※児童生徒の「ログイン ID」について

児童生徒のﾛｸﾞｲﾝ ID は、数字４文字で構成され自動的に付加されます。最初の２桁が「学年」「学級」となります。残り２桁が「番号」となります。ﾛｸﾞｲﾝ ID は変更できません。　例：５年３組３番→「５３０３」　　６年２組１２番→「６２１２」

※児童生徒の「パスワード」は、初期設定ではﾛｸﾞｲﾝ ID と同じ番号が割り振られます。

②名前の追加

年度途中の新たな児童生徒の追加など、児童生徒名簿に名前を追加する場合に使用します。名前の追加、ボタンを押すと、名簿入力部分が使用できるようになります。必要事項を入力し、追加します。

③名前の変更

名前の変更を変更したいの場合に使用します。変更箇所を修正し、「名簿に追加」ボタンを押して下さい。

④ログインの取り消し

「絆」は、同じユーザーが同時にログインできない仕組みになっています。

児童生徒が「絆」を正常に終了できなかった場合、サーバにサーバーにそのログイン情報が残っていて、次にログインしたとき**「すでにログインしています。」というメッセージが表示され、ログインできなくなる**ことがあります。その際、ログイン情報を取り消したい児童生徒に合わせて「ログインの取り消し」ボタンを押すと、サーバーのログイン情報が消えて、再度ログインできるようになります。

⑤パスワードの初期化

児童生徒が、自分のパスワードを忘れてしまった場合、パスワードを初期化したい児童生徒に合わせ「パスワードの初期化」ボタンを押すと、パスワードをログイン ID に戻すことができます。

⑥転出

転出処理をすると、「学習一覧表」で名前を表示しなくなります。

※この作業は、授業及び児童生徒の入力のある時間に行なわないで下さい。

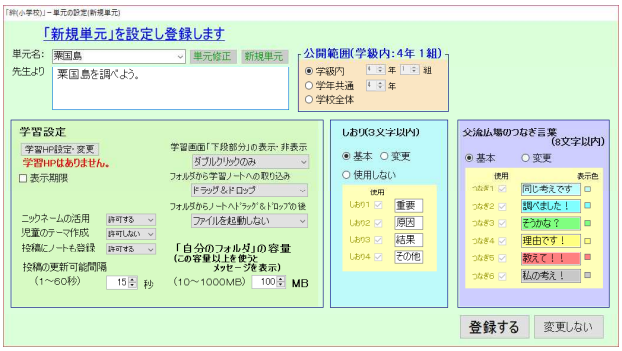
※この作業を反映させるためには、最後に「登録する」ボタンを押してください。

Ⅴ 対象者毎の機能一覧

7 単元の設定①単元名・公開範囲・フォルダ容量

管理者	×	教師	○	児童生徒	×	備考	

教師画面より「単元の設定」を押すと、単元設定画面が表示されます。単元設定では、以下の通りに設定を進めていきます。



図Ⅴ-8 単元の設定(新規単元モード)

①新規単元と単元修正モード

単元設定画面は、「新規単元モード」と「単元修正モード」があります。

1)新規単元モード

新しく単元を登録するときは、「新規単元」ボタンを押します。すると、画面全体が薄い緑色になります。

2)単元修正モード

これまでの単元を修正するときは、「公開範囲」を指定して、単元名コンボボックスより修正したい単元を指定して、「単元修正」ボタンを押します。すると、画面全体が薄いクリーム色になります。

②公開範囲

公開範囲は、「学級内」「学年内」「学校全体」の３種類があります。該当する範囲のラジオボタンをチェックします。

「学級内」の場合は学年・学級、「学年内」の場合は学年を選択します。

③単元名、先生より

新規単元モードの場合は、「単元名」を入力します。単元修正モードの場合は、「単元名」を修正できません。

「先生より」は、単元名とともに児童生徒画面に表示され、学習の動機付けになります。また、前時までの学習を振り返ったり本時の学習の方向性を確認したりすることができます。

新規単元モードの場合「先生より」までを入力すると学習設定以下の設定ができるようになります。

④「自分のフォルダ」の容量

「絆」では、「自分のフォルダ」に児童生徒が様々なデータを保存し活用することができます。このデータは、単元終了後も残っているためサーバの容量を圧迫することが考えられ、定期的に整理が必要になります。ここで指定した以上のデータを保存した場合、メッセージを表示して、整理を促します。１０ＭＢ単位で、１０００ＭＢのまでの範囲で設定できます。

8 単元の設定② 学習設定1

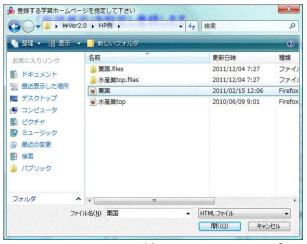
管理者	×	教師	○	児童生徒	×	備考	

⑤学習設定

1)学習 HP(ホームページ)の設定・変更

ワープロソフト等で作成し、HTML 形式で保存した学習 HP を設定することができます。この設定で、学習画面の WEB ページで学習 HP を表示し学習を行うことができます。

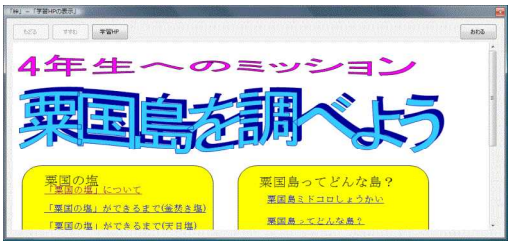
「学習 HP の設定・変更」ボタンを押すと、学習 HP の選択ダイアログ(図Ⅳ-10)が表示されます。



図Ⅴ-9 学習HPの選択

学習 HP が設定されると、「学習 HP 設定済み！！」(図Ⅳ-9)と表示されます。

設定した学習 HP は、「学習 HP の表示」ボタンをクリックすることで表示することができます。(図Ⅳ-11)



図Ⅴ-10 学習HPの表示

2)表示期限

単元をいつまで表示するかの期限を設定できます。期限を設定すれば、期限以降は、先生メニュー画面及び児童生徒メニュー画面に単元名が表示されなくなり、学習ができなくなります。

ただし、単元設定画面では表示され、表示期限を変更できます。一時的に表示したくないとき、学習終了の単元などを非表示単元にすることができます。

3)ニックネームの活用

ニックネームを活用できるかを設定するものです。ニックネーム機能は、自分の名前がわからないことで、発言が苦手な児童生徒でも自信を持って書き込みができるよう配慮したものです。しかし、匿名性が高くなることで、児童生徒の中には他の児童生徒を誹謗中傷するような書き込みが起こる可能性が高まります。

教師は、児童生徒の実態や学習内容によって、ニックネームを許可するかどうかを判断し、設定することが重要です。なお、設定では、「許可する」となっています。

4)児童(生徒)のテーマ作成

交流広場では、複数のテーマを作成し、議論を深めることができます。児童生徒が自由にテーマを作成すると、主体的な議論が期待できる反面、テーマの数が多すぎると思考が分散し、深まりが期待できないことも考えられます。教師は、児童生徒の実態や学習内容によって、児童生徒のテーマ作成を許可するかどうかを判断し、設定することが重要です。なお、設定では、「許可しない」となっています。

5)投稿にノートも登録

交流広場では、自分の考えを主張する際、その根拠となる「学習ノート」を登録することができます。登録した「学習ノート」は、「友だちのノートを見る」ボタンで誰でも表示できます。また、「学習ノート」に関連づけられた情報元も表示できるので、根拠を調べることができます。設定では、「許可する」となっています。

9 単元の設定③　学習設定2

管理者	×	教師	○	児童生徒	×	備考	

⑤学習設定２

6)投稿の更新可能間隔

交流広場の投稿の更新は、投稿後などに行いますが、児童生徒が投稿を読んでいる間は、更新を行いません。「こうしん」※1ボタンを押すことで、データベースにアクセスし更新を行います。児童生徒の中には、「こうしん」※1ボタンを連打しネットワークやデータベースに必要以上の負荷をかける場合も考えられます。そこで、「こうしん」※1ボタンを押すと一定時間「こうしん」※1ボタンが消え、設定時間(秒)後に再表示するよう設定されています。設定時間の範囲は１秒から６０秒までで、初期設定は１５秒となっています。

7)学習画面「下段部分」の表示・非表示

学習画面の下段部分をダブルクリックすることで「学習ノート」や「交流広場(参照)」を表示したり非表示にしたりすることができます。その際、クリックでも表示させるかどうかの選択です。初期設定では、「ダブルクリックのみ」となっています。

※「交流広場(参照)」は、「レポート」を表示している時のみ表示する事ができます。

8)フォルダから学習ノートへ取り込み

自分のフォルダ、みんなのフォルダにあるファイルを学習ノートに取り込みし、交流広場での意見の根拠にすることができます。この設定は、学習ノートに取り込む方法を指定します。

「Drag & Drop」と「コピー&貼り付け」があります。初期設定では、「Drag & Drop」となっています。学習用コンピュータのセキュリティーの関係上、「Drag & Drop」ができない場合があります。その場合は、「コピー&貼り付け」の設定を行います。

「Drag & Drop」の場合は、ファイルを学習ノートの所定の位置まで、Drag & Dropして設定します。

「コピー&貼り付けの場合」は、ファイルをコピーし、ファイルを学習ノートの所定の位置で貼り付けを行います。

9)フォルダから学習ノートへ Drag & Drop(コピー&貼り付け)の後

ファイルを学習ノートに取り込んだあと、取り込んだファイルを自動的に起動するかを指定します。

初期設定では、「ファイルを起動しない」となっています。

※１更新ボタンは、小学校用は「こうしん」、中学校用は「更新」と表示されます。

10 単元の設定④ しおり・つなぎ言葉

管理者	×	教師	○	児童生徒	×	備考	

⑤「しおり」「つなぎ言葉」

1) しおり

しおりは、児童生徒が学習ノートを作成時に、特に大事だと感じた場合「重要」「原因」「結果」といったキーワードにチェックをつける機能です。本に栞を挟むように、学習ノートに目印をつける機能です。

児童が作成する学習ノートが多くなるにつれ目的の学習ノートを探すことに時間がかかります。そのような場合、しおりで絞り込むことができます。

しおりは、「基本」モードでは、「重要」「原因」「結果」「その他」の４つが登録されています。「変更」モードで、しおりの観点を変更することができます。また、「使用しない」を選択すると、学習画面で表示されなくなります。

2) つなぎ言葉

つなぎ言葉は、テーマや相手の投稿に対して、「同じ考えです」「調べました！」「そうかな？」「理由です！」など自分の立場を表す言葉です。つなぎ言葉は、教師が単元登録の際に最高６つまで言葉と色を設定できます。投稿の表示は、つなぎ言葉別に色分けされるので、立場が確認しやすくなります。

※つなぎ言葉の例として、表Ⅴ-1 のような言葉が考えられます。

表Ⅴ−1 つなぎ言葉の例

立場	種類	つなぎ言葉例（８文字以内）	立場	種類	つなぎ言葉例（８文字以内）
賛成	同調	同じ考えです、同じです	質問	質問	教えて？
	補足	付け足して		条件	こんな時は、こんなことは
	正当化	なぜならば	根拠	証拠	調べました！、実験しました
反対	反論	そうかな？		理由	理由です！
	意見	私の考え！、思うんだけど	その他	統合	まとめると
				言い換え	言いかえると

11 データフォルダの設定

管理者	－	教師	－	児童生徒	－	備考	学習用コンピュータの設定時のみ表示

※全ての学習用パソコンで、「絆」の設定時の最初に１度だけ表示されます。また、データベースのフォルダ等を変えた場合も再設定のため表示されます。

「絆」を起動すると、学習用パソコンから「データフォルダ」と呼ばれるフォルダの指定を要求されます。

図Ⅴ-11 データフォルダの設定画面

フォルダ選択ボタンを押して、サーバーのフォルダを指定します。その後「 Ok 」ボタンを押すと終了です。

※データベースフォルダは、「絆（小学校）」では「DataBaseV2E」、「絆（中学校）」では「DataBaseV2J」となります。

※この操作で、学習用パソコンには、**レジストリと呼ばれる特殊な領域にデータフォルダの情報が記憶**されます。２度目の起動以降は、データフォルダの情報を読み取り、データベースにアクセスします。

Ⅵ章

「絆」の学習画面

１　学習画面の概要
２　学習画面の表示モード
３　情報部の表示
４　学習画面の設定
５　Webページ
６　交流広場①　画面構成
７　交流広場②　投稿表示部（表示）
８　交流広場③　投稿表示部（更新）
９　交流広場④　テーマの選択・作成
１０　交流広場⑤　投稿の入力
１１　交流広場⑥　投稿の更新
１２　フォルダ
１３　レポート
１４　学習ノート①　学習ノートの意義と必須情報
１５　学習ノート②　作成トレイ、ノートの作成（Ｗｅｂ）
１６　学習ノート②　ノートの作成（フォルダ）
１７　学習ノート②　ノートの表示、元情報
１８　学習ノート③　検索と画像情報、印刷
１９　学習状況表示①　学習状況一覧表
２０　学習状況表示②　学習状況表示モード

この章では、「絆」の学習画面について説明します。

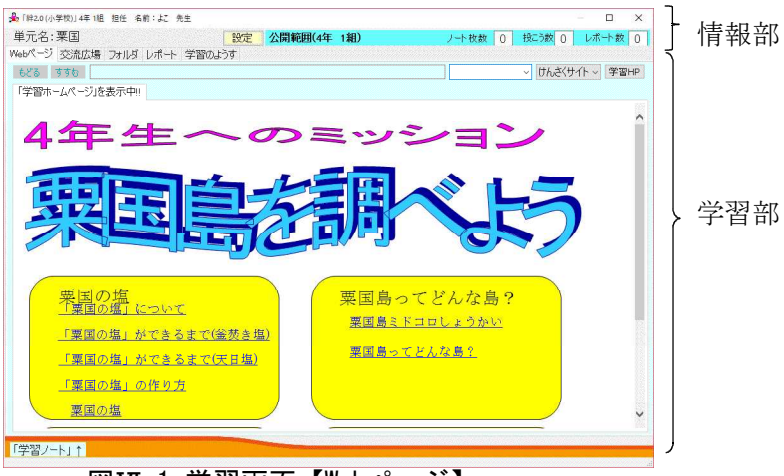
学習画面は、「Web ページ」「交流広場」「フォルダ」「レポート」「学習ノート」の機能を使って児童生徒が学習を行うほか、教師が児童生徒の学習のようすを確認することができます。そのために数多くの機能があり、授業の中でそのすべてが必要というわけではありません。学習画面を教師が理解し、効果的な学習活動に繋げてほしいと思います。

※「絆」を活用した学習と支援は、１５ページに記載してあります。

Ⅵ 「絆」の学習画面

1 学習画面の概要

管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	



図Ⅵ-1 学習画面【Webページ】

学習画面は、児童生徒が学習を行う画面です。学習画面は、最低 1024 × 768 ドット【XGA】の大きさが必要です。学習画面は、自由に拡大できます。

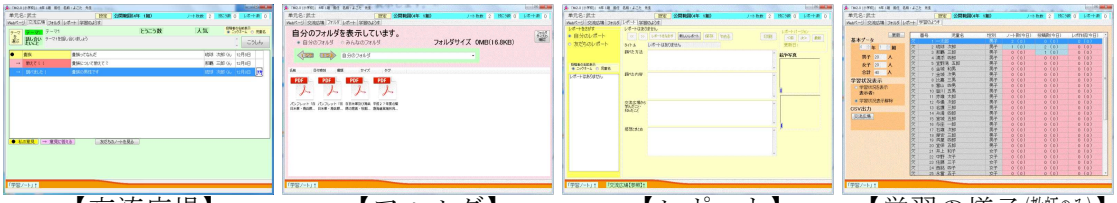
学習画面は図Ⅴ-1 のように「情報部」「学習部」に分かれます。

(1) 情報部

ユーザー名や単元などの各種の情報を表示します。

(2) 学習部

「Web ページ」「交流広場」「レポート」「フォルダ」「学習のようす」の各機能をタブ切り替えで表示できます。



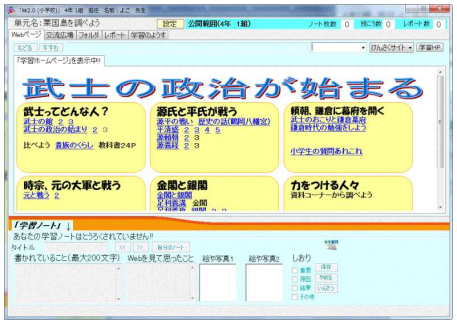
【交流広場】 【フォルダ】 【レポート】 【学習の様子(教師のみ)】

図Ⅵ-2 学習画面

(3) 学習ノート

「学習ノート」は、学習部の下段の【「学習ノート」↑】をダブルクリックすることで表示されます。

「学習ノート」を非表示にするときは、【「学習ノート」↓】をダブルクリックします。



図Ⅵ-3 学習画面(学習ノートを表示)

Ⅵ 「絆」の学習画面

2 学習画面の表示モード

管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	

学習画面は、児童生徒の学習を支援する**「学習モード」**と教師が児童生徒の学習の状況をリアルタイムに把握し指導に生かす**「学習状況表示モード」(教師のみ)**があります。教師のログイン後は、**「学習モード」**が表示されます。

「学習状況表示モード」に切り替えるには以下の２種類の方法があります。

①「学習のようす」タブで「学習状況を表示」ラジオボタンをクリック

②「学習のようす」タブで一覧表の該当児童生徒をダブルクリック

「学習状況表示モード」から「学習モード」に切り替えるには、次の方法があります。

①「学習のようす」内の「学習状況表示モードを解除」ラジオボタンをクリック

②「情報部」の「解除」ボタンをクリック

両モードので表示は、以下の通り異なる部分があります。

表Ⅵ-1 両モードでの表示が変わる部分

表示部分			学習モード	学習状況表示モード
情報部		公開範囲	公開範囲(○年○組)　等	学習のようす(児童名)
		解除ボタン	ボタンを非表示	ボタンを表示
		ノート枚数	自分のノート:ユーザーのノート数(標準字体、黒) 友だちのノート:"*"印。バック黄色、文字青。	対象児童生徒のノート数 *(太字、斜体、青)*
		投こう数	ユーザーの投稿数 (標準字体、黒)	対象児童生徒の投稿数 *(太字、斜体、青)*
		レポート数	ユーザーのレポート数 (標準字体、黒)	対象児童生徒のレポート数 *(太字、斜体、青)*
学習ノート		ノート情報	自分のノート:あなたのノート ○まい中→○まいめ 友だちのノート:○○さんのノート	学習状況:(児童生徒名) ○枚中→○枚目 (選択児童生徒のノートのみ表示)
		先生よりボタン	教師:「先生より」ボタンを非表示 児童生徒:先生からのメッセージがあれば、「先生より」ボタンを表示され、そのボタンを押すことで読むことができる。	「先生より」ボタンで、メッセージを書いたり修正したりできる。
交流広場	テーマ	先頭列	当該テーマの全投稿数	当該テーマの対象児童生徒投稿数
		表示部分	標準字体、黒	対象児童生徒:*太字・斜体、青*その他児童生徒:標準字体、黒
		設定ボタン	教師:表示　児童生徒:非表示	非表示
		登録	表示(新規テーマ登録可) ※テーマがロックされていないとき	非表示(登録不可)
	投稿名前表示	表示部分	標準字体、黒	対象児童:*太字・斜体、青* その他児童:標準字体、黒
		グループボックス	教師　　:表示　(選択可) 児童生徒:非表示(ニックネーム表示)	非表示(児童生徒名表示)
レポート		検索	「自分のレポート」と「みんなのレポート」を有効化 **※自分とみんなに分けて検索**	「自分のレポート」と「みんなのレポート」を無効化 **※対象児童生徒のみの検索**
		表示	「レポートを作る」を表示 ※「<<」「>>」ボタンが使えるのは、自分のレポートを見る場合のみ。	「○○さんのレポートを表示」 **※対象児童生徒のみの表示になる。**

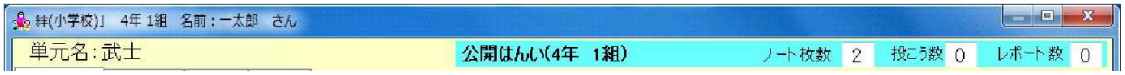
Ⅵ 「絆」の学習画面

3 情報部の表示

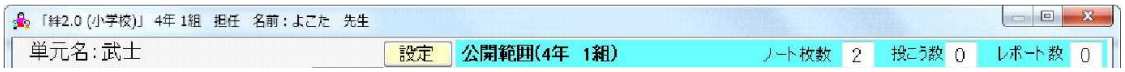
管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	

「情報部」は、各機能と独立し現在の情報を提供するための部分です。

(1)学習モード



図Ⅵ-4　情報部【児童生徒】



図Ⅵ-5　情報部【教師：学習モード】

「情報部」は二段で構成されていて、１段目に担当学年・学級とともにと氏名が表示されます。

２段目は、教師のみ「設定ボタン」が表示されます。設定ボタンについては次ページで解説します。また、「単元名」と「公開範囲」に加え、「ノート枚数」「投稿数」「レポート数」が表示されます。これらの機能は、児童生徒および教師にとって次のような教育効果が考えられます。

○児童生徒の学習効果

児童生徒は、自分の学習状況を数で把握することができます。学習が進むに従い、それぞれの数が増えることで学習の励みとなります。しかし、単に数を増やすことだけにこだわる児童生徒には、教師の指導が必要です。

○教師の教育効果

教師は､机間巡視しながら児童生徒の学習のようすの概要を把握することができます。学習の停滞している児童生徒が見つけやすくなり、個別の支援につなげることができます。

(2)学習活動表示モード

図Ⅵ-6　情報部【教師：学習状況表示モード】

学習状況表示モードでは、周りの色が、「灰色」から「薄い茶色」に変わります。また、「公開範囲」の代わりに「学習のようす(児童名)」が表示されます。また、「ノート枚数」「投稿数」「レポート数」が濃い青で強調表示されます。図では、「琉球　次郎さん」の学習のようすを示していることが分かります。

学習活動表示モードでは「表Ｖ－１」のように、当該児童(この表示の場合は、琉球次郎さん)の学習ノート、投稿のようす、フォルダ、レポートを表示することができます。

「解除」ボタンは、「学習状況表示モード」を解除し「学習モード」に移します。

Ⅵ 「絆」の学習画面

4 学習画面の設定

管理者	×	教師	○	児童生徒	×	備考	

①設定ボタン

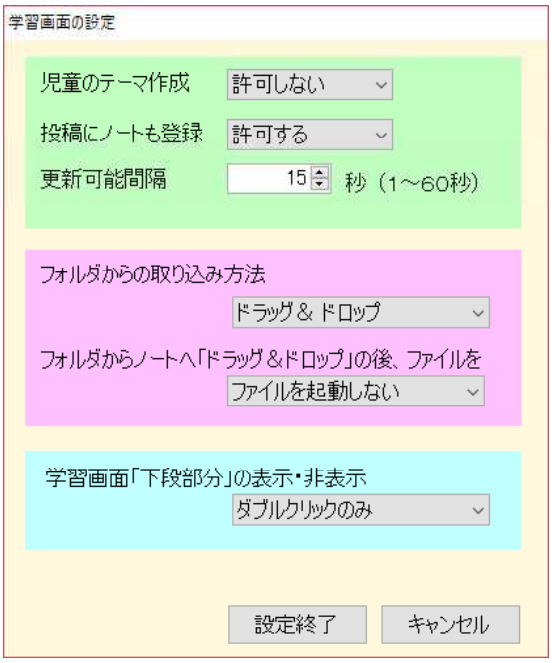
学習画面には、教師のみ設定ボタン表示されます。

設定ボタンを押すと、右図のようなダイアログが表示されます。これらの設定は、単元設定でも行うことができますが、学習中に設定できるようにしたものです。

ここで設定できるのは、右図のように次の６項目です。

①児童生徒のテーマ作成
②投稿にノートも登録
③更新可能間隔
④ファイルからの取り込み方法
⑤取り込んだファイルを自動起動するか
⑥下段部分の「下線部分」の表示・非表示の方法

それぞれの設定内容は、「Ｖ－９単元の設定③学習設定２」(48 ページ)をご覧下さい。

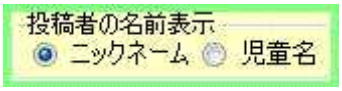


図Ⅵ-7　情報部【教師：学習モード】

学習画面の設定で変更した部分の児童生徒パソコンへの反映は、「学習部のタブを切り替えたとき」および「交流広場で【更新ボタン】を押したとき」に行われます。

②投稿者の名前表示

投稿者の名前表示は、児童生徒の場合ニックネームで表示されます。ニックネームで表示することで、発言が苦手な児童生徒でも、躊躇なく投稿できるようにするためです。しかし、誹謗中傷の書き込みやふざけた書き込みがあると指導が必要です。教師画面には、右のような「投稿者の名前表示」グループボックスが表示されます。そこで、児童名表示を行うことができます。



図Ⅵ-8 名前表示切換部

コラム

教師は、投稿内容が、テーマからそれたり、感情的になったり、誹謗中傷したりしないよう常に見守る必要があります。特に、誹謗中傷等の書き込みが行われた場合は、実際の問題として学級指導や道徳の時間で情報モラルに関して指導する必要があります。

Ⅵ 「絆」の学習画面

5 Webページ

管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	

図Ⅵ-9　Webページ(学習HPを表示中)

Web ページは学習画面で「Web ページ」タブを押すと表示されます。

この領域は、学習 HP(学習ホームページ)やインターネット上の Web ページを表示します最初に学習 HP が表示されます。(学習を設定していない場合は、小学校：ヤフーキッズ、中学校：Yahoo!　Japan を表示します。)

Web ページは通常のブラウザと同じように「すすむ」「もどる」のボタンを押すことで進めたり、元に戻すことができます。また、中央上部のコンボボックスにキーワードを入力すると google の検索結果が表示されます。児童生徒は、学習 HP からリンクされていない Web ページについてもこのように自由に検索できます。検索サイトをクリックすると「Yahoo!きっず」等の検索サイトに行くことができます。

児童生徒がリンクをたどっていろいろな Web ページを表示して後、右上の「学習 HP」ボタンを押すことでいつでも学習 HP のもどることができます。

ブラウザの周りの色は、学習 HP 表示時は薄いブルーです。しかし、Web ページを読み込んでいる場合はピンク色、読み込んだ後はブルーに変わります。さらに、ロックされているときが、ピンク色となります。色を変えることで、ブラウズの状態を表示するよう工夫しています。

児童生徒が、これらの情報の中から重要だと判断した場合は学習ノートに保存します。学習ノートに保存することにより、他の学習ノートや図書情報等の他の情報と比較検討したり、意味のとらえなおしをしたりしながら学習を進めることもできます。また、交流広場で根拠として提示することができます。

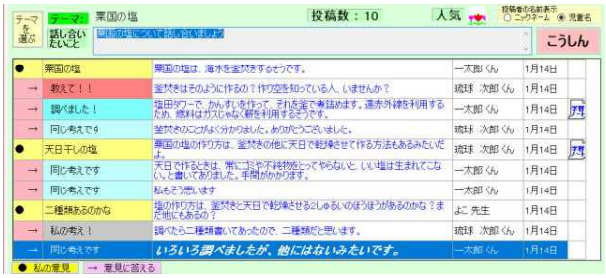
コラム

学習 HP は、教師が作る学習ナビゲーションのための Web ページで、学習のヒントや調べ学習のリンク集等から構成されます。学習 HP は、一太郎や Microsoft Word 、で作成し、「Web ページで保存」します。児童は、自身の問題意識と考えをもとに学習 HP に張られたリンクをたどって学習を進めます。学習に即した学習 HP を作成することで、効果的な調べ学習が展開することができます。

Ⅵ 「絆」の学習画面

6 交流広場① 画面構成

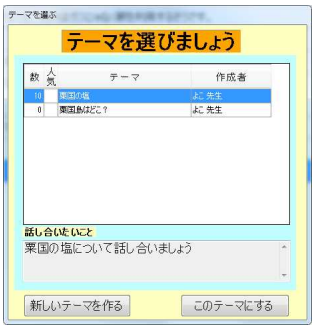
管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	



図Ⅵ-10　交流広場例

交流広場は、学習用の掲示板です。通常の掲示板機能に加え、話し合いが活性化するように、様々な工夫が施されています。

交流広場は、テーマごとに話し合いを行います。テーマを選択する場合は、右上の、「テーマを選ぶ」ボタンをクリックし、テーマ選択の画面（図Ⅵ-11）を表示します。



図Ⅵ-11 テーマ選択画面

テーマは、主に授業を行う教師が作成します。また、教師が許可した場合には、児童生徒でも作成することができます。テーマ数には、制限がありません。

交流広場の上部には、「テーマ」「話し合いたいこと」が表示されます。この２項目は、テーマ設定によって決まってきます。

上部にある以下の表示は、掲示板の様子を表示したり、設定をしたりするために使用します。

投稿数・・・このテーマの投稿数を表示します。

人気・・・・今日の投稿数を下の人気バロメーターで表示します。

校　種	投稿なし	１～９回	10 ～ 19 回	20 回以上
小学校用	表示しない			
中学校用	表示しない			

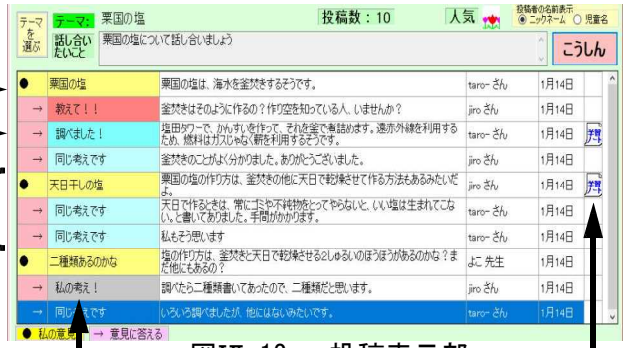
投稿者の名前表示・・・投稿者の名前を「ニックネーム」「児童生徒名」を切替ます。
この表示は、教師のみ行うことができます。
児童生徒は、「ニックネーム」表示となります。

「学習ノート」・・根拠として学習ノートを示す場合はノートマーク が付きます。

Ⅵ 「絆」の学習画面

7 交流広場② 投稿表示部(表示)

管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	



基投稿のマーク(●)

関連投稿のマーク(→)

ブロック(基投稿による一連の書き込み)

図Ⅵ-12　投稿表示部

立場を示すつなぎ言葉　　*根拠を示すノートマーク*

投稿表示部は、テーマに沿った投稿を行う部分です。通常の掲示板機能に加え、議論を活発にするための数多くの機能を付加しています。

①「基(もと)投稿」と「関連投稿」、「ブロック」

「絆」では、投稿を「基投稿」と「関連投稿」に分け管理しています。

「基(もと)投稿」・・・・・・「テーマ」に沿った投稿者の問題提起の投稿をいいます。

「●私の意見」ボタンを押し、「タイトル」と「意見」を入力します。

基投稿は、先頭欄に「●」(背景色：黄色)の文字がつきます。

「関連投稿」・・・・「基投稿」や「関連投稿」に対する意見や感想等の書込をいいます。

相手の意見を指し示し(青の反転表示)「→　意見に答える」ボタンを押します。

自分の立場を示す「つなぎ言葉」を選択し、「意見」を入力します。

関連投稿は、先頭欄に「→」(背景色：ピンク)の文字がつきます。

関連投稿は、関連するブロックの最後に挿入されます。

「ブロック」・・・・「基投稿」から始まり、それに対する「関連投稿」を含んだ「一連の書き込み」をいいます。

「ブロック」は、「基投稿」から、次の「基投稿」の直前行までとなります。

議論が活発になると、ブロック内に多くの関連投稿が書き込まれていきます。

②ノートマーク

議論の中で、根拠として学習ノートが示されているときは、「ノートも一緒に登録」することができます。その際、ノートマーク 学習 が表示されます。

Ⅵ 「絆」の学習画面							
8 交流広場③ 投稿表示部(更新)							
管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	

「更新」ボタンを押すと、サーバー上の新しい投稿が表示されます。投稿数が多くなると、どこまで読んだのか、新たな投稿はどれかが分かりにくくなります。そこで、新規に表示される投稿を次のように視覚化しています。

「新規投稿(関連)」・・　新規投稿(関連)とは、自分が書き込んだブロックに新規表示された投稿をいい、青の拡大文字で強調印字されます。

「新規投稿(関連なし)」・・新規投稿(関連なし)は、書き込んでいないブロックの新規書き込みをいいます。黒の拡大文字で強調印字されます。

さらに「更新」ボタンで再度読み込みを行うと、これらの投稿は普通の表示に戻ります。

※「基投稿」「関連投稿」「ブロック」および「新規投稿(関連)」「新規投稿(関連なし)」は、絆での定義です。一般的な名称ではありません。

Ⅵ 「絆」の学習画面

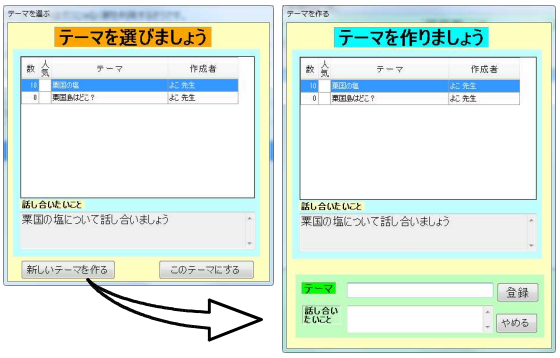
9 交流広場④ テーマの選択・作成

管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	

①テーマ選択

交流広場では、テーマ毎にテーマごとに話し合いを行います。テーマを選択する場合は、画面右上の「テーマを選ぶ」からボタンをクリックし、テーマ選択の画面を表示します。

②テーマ作成



テーマの作成は通常は教師が行います。教師が許可した場合は児童生徒でも作成することができます。新しくテーマを作成するには、テーマ選択画面から「新しいテーマを作る」ボタンをクリックします。（児童生徒がログインした際、先生が許可しない場合は「新しいテーマを作る」ボタンが表示されません。）

図Ⅵ-13　テーマの選択と入力

テーマ入力は、「テーマ」「話し合いたいこと」の２情報を入力します。

①テーマ・・・・・・・・２０文字以内で具体的かつ簡潔に書き、「どんな話し合いがしたいか」がわかるようにします。このタイトルによって話し合いが進められていきます。

②話し合いたいこと・・しっかり話し合いたいことを持ってからテーマを作成するために入力します。入力は、１００文字に制限されていて、問題意識を具体的に書きます。

③「登録」　・・・・・テーマを登録します。

⑤「やめる」・・・・・テーマの登録を中止します。

※授業中に、「とうろく」または「ノートも一緒にとうろく」したテーマを他のコンピュータで表示するには、「更新ボタン」を押します。

Ⅵ 「絆」の学習画面

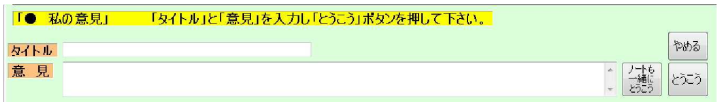
10 交流広場⑤ 投稿の入力

管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	

「投稿」の入力には、「基投稿」と「関連投稿」の２つの方法があります。（「基投稿」と「関連投稿」については、「Ｖ－６交流広場② 投稿表示部の表示」を参照）

① 「基投稿」の入力

基投稿は、「テーマ」に沿った投稿者の問題提起の投稿をいいます。投稿表示部の左下にある**「●私の意見」**ボタンをクリックすると、**図Ｖ-11**のように「タイトル」と「意見」を入力する投稿入力部が表示されます。



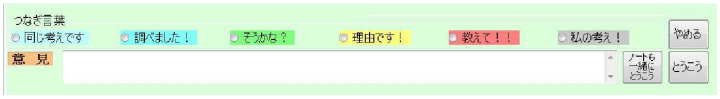
図Ⅵ-14 投稿入力部（基投稿）

1）タイトル ・・・問題提起の概要やキーワードを**２０文字以内**で具体的かつ簡潔に記述します。

2）意 見 ・・・「何を話題にしたいのか」がわかるように自分の考えを、１００文字以内で記述します。

②「関連投稿」の入力

「関連投稿」は、「基投稿」や「関連投稿」に対する意見や感想等の書込をいいます。投稿表示部の左下にある**「→ 意見に答える」**ボタンをクリックすると、**図Ⅵ-15**のように「つなぎ言葉」と「意見」を入力する投稿入力部が表示されます。



図Ⅵ-15 投稿入力部（関連投稿）

1）つなぎ言葉・・・テーマや相手の投稿に対して、「同じ考えです」「そうかな？」など自分の立場を表す言葉です。つなぎ言葉は、教師が単元登録の際に最高６つまで言葉と色を設定できます。投稿の表示は、つなぎ言葉別に色分けされるので、立場が確認しやすくなります。

2）意 見 ・・・自分の意見を**１００文字以内**で具体的かつ簡潔に書きます。

③投稿ボタン等

1）投稿 ・・・投稿を行います。

2）ノートも一緒に投稿・・自分の意見を補足し、より説得するために関連する自分の学習ノートも一緒に登録します。学習ノート一緒に投稿した場合は、投稿の後にマークがつきます。別の学習者がノートを見る場合は、「友だちのノートを見る」ボタンをクリックすることで表示されます。（学習ノートが非表示の場合、学習ノートの保存がない場合は、表示されません。）

3）やめる ・・・投稿をキャンセルする場合にクリックします。

※投稿入力中は、「学習タブ」及び「学習ノート」がロックされます。

Ⅵ 「絆」の学習画面

11 交流広場⑥ 投稿の更新

管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	

テーマや投稿を最新データに更新する方法は次の２つの方法があります。

① 投稿表示部の上部にある「こうしん(更新)」ボタンをクリックする。

「こうしん(更新)」ボタンをクリックすることで、データベースにある最新のデータに更新します。その際、「こうしん(更新)」ボタンが消えます。更新可能時間(初期値は 15 秒)が経過すると、「こうしん(更新)」ボタンが再び現れ更新が可能になります。

② テーマや投稿を入力する場合。

テーマや投稿を入力する場合もデータが更新されます。その際は、「こうしん(更新)」ボタンが更新可能時間が経過するまで消えます。

コラム

※データ更新の際は、データベースへのアクセスが行われます。更新ボタンを連続して押し続けると、それだけデータベースへの負荷がかかります。それを避けるため「更新可能時間」を設定し、一定時間が経過するまでこうしん(更新)」ボタンを非表示にしています。

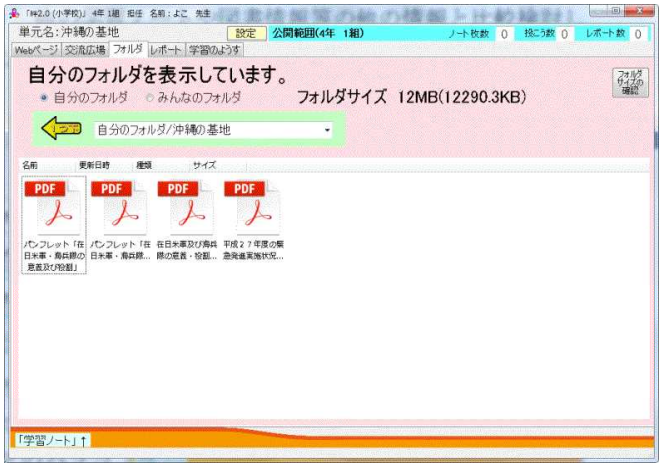
※「更新可能時間」は、単元の設定または交流広場の設定で 1 秒から 60 秒の間で変更することができます。「更新可能時間」が長くなればデータベースへの負荷が減りますが、更新するタイミングが遅くなります。また、短くなるとデータベースへの負荷が大きくなることも考えられます。

※更新を自動化しない理由は、児童生徒が投稿内容を読んでいる際に自動的に更新され思考が途切れることを防ぐためです。

Ⅵ 「絆」の学習画面

12 フォルダ

管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	



図Ⅵ-16 ﾌｫﾙﾀﾞ画面（自分のﾌｫﾙﾀﾞ）

フォルダは、児童生徒が実験や観察、取材などで得られた画像や動画に加えPDF、ワープロデータなどの様々な電子データを管理するものです。

「絆」のフォルダ機能は、サーバー上に児童生徒や単元毎にフォルダを作成し、ログイン ID と単元名で管理されています。したがって、教師や児童生徒がどのパソコンを使用しても、自分フォルダを表示したりデータを保存したりできます。

データの保存は、Windows のフォルダと同様にドラッグ＆ドロップやコピー＆貼り付けで行うことができます。また、ダブルクリックで動画ファイルを表示させたり、ワープロや表計算のデータを立ち上げたり、編集することもできます。

フォルダには、以下の２種類があり、切り替えて使うことができます。

自分のフォルダ‥‥個人専用のフォルダです。ログイン ID で管理され、他の児童生徒のフォルダを表示することはできません。単元名のサブフォルダが自動で作成され、サブフォルダ上のファイルが表示されます。データの管理や整理は、児童生徒自身に任されています。単元登録等で設定した「自分のフォルダの容量」を超えると、「容量オーバー。使わないファイルは消して下さい。」というメッセージが表示され、削除を促します。

みんなのフォルダ‥単元ごとに作成されるフォルダです。単元の学習を進めていく中でみんなで共有するファイルを格納します。

一般の Windows のフォルダと同様に、画面上の右クリックで表示方法や並べ方を変えたり、サブフォルダを作成したりできます。１つ下のフォルダを表示する場合は、「一つ下」の矢印をクリックします。

児童生徒が､これらのデータの中から重要だと判断した場合は学習ノートに保存します。学習ノートに保存することにより、他の学習ノートや図書情報等の他の情報と比較検討したり、意味のとらえなおしをしたりしながら学習を進めることもできます。また、交流広場で根拠として提示することができます。

Ⅵ 「絆」の学習画面

13 レポート

管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	

レポートは、児童生徒本人がこれまでの学習を振り返り、自分との対話しながらまとめる作業を行なうために作られたものです。この作業を通して、これまでの自分の考えや知識をもとに、Web 等からの情報や他の児童生徒からの意見等を踏まえて、意味と関係をとらえ直して、自分の考えを確かめ、新たな価値付けを行います。そこでレポートは、「タイトル」「調べた方法」「調べた内容」「交流広場から学んだこと・知ったこと」「感想まとめ」の五つの項目をすべて入力しして保存します。レポートは、「絆」の他の学習機能と連携させて書くことが求められます。「調べた内容」の項目は学習ノートから、「交流広場から学んだこと・知ったこと」の項目は交流広場からそれぞれ参照しします。この五つの項目は、すべて入力しなければ保存できません。特に、レポートを書けない児童生徒にとって五つの項目がレポート作成の視点となる事も考えられます。また、必要に応じて「絵や写真」を二つまで張り付けることが出来ます。

図Ⅵ-17 レポート画面（入力中）

児童生徒がレポートを修正を行った場合、修正されたレポートはバージョンで管理されていて、修正前のレポートも保存されています。そこで、どのように修正したかをさかのぼって確認することができます。

レポートは、自分で作成したものだけではなく、他者の作成したレポートを見ることができます。そこで、レポートの書き方や友だちがどのようにまとめたかを見て、自分のレポートに活かすことができます。

教師が学習状況支援モードを活用して、レポートにメッセージを書き込むことができます。その際、「感想とまとめ」の先生よりのメッセージが表示されます。児童生徒は、それを見て学習の動機付けを行ったり、レポートにまとめる視点を示すことでレポート内容の方向付けすることができます。

コラム

レポートを書き上げることで、学習の終了としても良いし、レポートを基に壁新聞にまとめたり、プレゼンテーションにまとめ発表したりするなど発展的な学習を行うこともできます。

Ⅵ 「絆」の学習画面

14 学習ノート①学習ノートの意義と必須情報

管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	

図Ⅵ-18 学習ノート画面(※著作権保護のため一部を消しています)

①学習ノートの意義

学習ノートは、児童生徒が「Web ページ」「自分の(みんなの)フォルダ」、「本や資料」の情報を丹念に読み取り、重要な部分の選択、要約、価値付け、整理するための電子上のノートで、何枚でも作成することができます。学習画面の下段部に位置し「学習ノート↑」ボタンをダブルクリックして表示します。

学習ノートは、探求的な学習の情報源として考えのもととなったり、比較検討する資料となったり、自分の考えを裏付ける根拠になったりします。１つの学習ノートに１つの情報を保存することで、情報を検索したり、比較したりする作業が容易になります。また、学習ノートでは、「Web ページ」「自分の(みんなの)フォルダ」を保存した場合、参照したファイル(Web ページや自分の(みんなの)フォルダ上のファイル)まで溯って表示することができます。そのため、１つの学習ノートに、１つの情報を保存します。(一枚一情報の原則)そのため、児童生徒が情報を入力中には、**Web ページや学習タブをロック**するようにしています。同じ Web ページやファイルでも、別の情報を保存したいときは、新しいノートに保存します。

②入力項目と必須情報

学習ノートは、「Web ページ」「自分の(みんなの)フォルダ上のファイル」「本や資料」の三つの情報源をもとに作成されます。情報源により表示される項目が変化します。

(表Ｖ－１)

「タイトル」「内容」「感想」の３つは必須な情報として必ず入力しなければ保存できません。その他の項目「絵や写真１」「絵や写真２」「しおり」は、入力が無くても保存できます。

表Ⅵ-2学習ノートの入力項目と表示

情報源	Web ページ	ファイル	本や資料	備　　考
タイトル	「タイトル」	「ファイル名」	「資料名」	(必須)10 文字以内
内　容	「書かれていること」(ドラッグ&ドロップで入力)	「調べたこと」		(必須)200 文字以内
感　想	「Web を見て分かったこと」	「調べて分かったこと」		(必須)200 文字以内
写真１	「絵や写真１」 (ドラッグ&ドロップで入力)	非表示(入力不可)		
写真２	「絵や写真２」 (ドラッグ&ドロップで入力)	非表示(入力不可)		
しおり				

Ⅵ 「絆」の学習画面

15 学習ノート② 作成トレイ、ノート作成(Web)

管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	

③作成トレイ

学習ノートは学習画面に応じて、入力できる情報源が異なります。現在作成可能な情報源は、学習ノートの中央上部に表示されている作成トレイに表示されます。

図Ⅴ-19 作成ﾄﾚｲ

④学習ノートの作成

1) Web ページ( )

Web ページを指定して学習ノートを作成する場合は、作成トレイにある Web ページのアイコンをクリックします。学習ノートがピンク色に変わり、作成モードになります。

「タイトル」「書かれていること」「Web を見て分かったこと」の必須 3 項目に加え、「絵や写真」を入力することができます。

「タイトル」は、学習ノートの「見出し」となります。保存する学習ノートが多くなると、タイトル名で検索することができます。児童は、後で容易に検索できるよう学習ノートの内容を要約したわかりやすいタイトル名付けることが必要になります。

「**書かれていること**」は、Web ページからドラッグ＆ドロップで入力できます。しかし、200 文字の制約があるため Web ページで重要な部分を絞り込む必要があります。

「**Web を見て分かったこと**」は、分かったことなどを書き留めておく部分です。

「絵や写真」は、必要に応じて Web ページからドラッグ＆ドロップで入力できます。最大２つまで入力できますが、必須ではありません。

自動的に Web ページのアドレスを記憶します。学習ノートを表示した際に、現在表示されている Web ページを表示することができます。

図Ⅵ-20 学習ノート作成(Webページ)

2) 本や資料( )

Web ページを指定して学習ノートを作成する場合は、**作成トレイにある「本や資料」のアイコンをクリック**します。学習ノートが灰色に変わり、作成モードになります。

図Ⅵ-21 学習ノート作成(本や資料)

「資料名」「調べたこと」「調べて分かったこと」の必須 3 項目のすべてに入力します。

最後に、「保存」ボタンをクリックします。

Ⅵ 「絆」の学習画面

16 学習ノート③ ノート作成(フォルダ)

管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	

④学習ノートの作成

3) ファイル( )

ファイルを指定して学習ノートを作成する場合は、**作成トレイにあるファイルのアイコンをクリック**します。学習ノートが肌色に変わり、作成モードになります。

ファイルの指定は、「ドラッグ＆ドロップ」と「コピー＆貼り付け」の２種類の方法があります。

図Ⅵ-22 学習ノート作成(ファイル:ドラッグ&ドロップ)

ｱ) ドラッグ＆ドロップによる指定

フォルダのファイルをドラッグし、学習ノートの黄色の四角の中でドロップします。

ｲ) コピー＆貼り付け

フォルダのファイルをコピーし、学習ノートの緑の四角の中でクリックします。

図Ⅵ-23 学習ノート作成(ファイル:コピー&貼り付け)

「絆」では、「ドラッグ＆ドロップ」による方法を初期設定としていますが、学習用コンピュータのセキュリティーの関係上、「Drag & Drop」ができない場合があります。その場合は、「コピー＆貼り付け」で取り込みます。

どの方法でファイルを指定するかは、「単元の設定(48 ページ)」または「学習画面の設定(57 ページ)」で行います。

また、ファイルをしていた際、ファイルを起動することもできます。この設定も、同じところで行います。

ファイルの指定がおわると、「ファイル名」の部分にファイルの名前が自動的に入力されます。**「調べたこと」「調べて分かったこと」**の必須項目のすべてに入力します。

最後に、「保存」ボタンをクリックします。

⑤しおり機能

保存する学習ノートが多くなると目的の学習ノートを見つけることが困難となります。そこで、ノートを検索する機能を備えています。その１つにしおりでの検索があります。しおりにチェックを入れることで、後の検索で容易に目的のノートを見つけることができます。

Ⅵ 「絆」の学習画面							
17 学習ノート④ ノートの表示、情報元							
管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	

①学習ノートの表示

作成した学習ノートを表示する場合は、学習ノート上部にある「<<」ボタンと「>>」ボタンを活用します。また、学習ノートの上部に「あなたのノート　○まい中→○まいめ」と表示されます。次ページの検索機能を使うと多くのノートから必要なノートを素早く見つけることができます。

※学習ノートは、単元内で作成されたものだけ表示されます。別の単元で作成されたものは表示されません。

②表示トレイ

「学習ノート」の特徴の一つに「情報元を表示できる」ことがあげられます。情報元が「Ｗｅｂページ」「自分の(みんなの)フォルダ」の場合は表示トレイに情報元を示すマークが表示されます。

表示トレイは、**図Ⅴ-24**に示すとおり四種類となります。

図Ⅵ-24表示トレイ

①Ｗｅｂページの表示

②ファイルの表示

③ファイルが見つからない(「保存した際指定したファイルが無くなった。」等)

④表示する情報元が無い(情報元が本や資料の場合)

表示トレイが①及び②の場合、マークをクリックすることで情報元を表示することができます。

学習ノートに友だちの論拠が表示された場合でも、「Web」ボタンでその Web ページを見ることができます。

このように、いつでも情報元に戻って確認することができます。

Ⅵ 「絆」の学習画面

18 学習ノート⑤ 検索と画像情報、印刷

管理者	×	教師	○	児童生徒	○	備考	

検索

調べ学習で自分の考えをつかむためには、多くの情報が必要です。児童生徒の学習ノートも膨大な数になることが予想されます。これまでに作った学習ノートの中から必要な学習ノートを見つけるために、「ノートをさがす」を利用します。

図Ⅵ-25 学習ノート検索画面

検索機能は、「タイトルでさがす」「しおりでさがす(大画面のみ)」の２種類があります。

タイトルでさがす‥‥タイトルの文字列を検索して、表示します。たとえば、「塩田タワー」のタイトルは、検索文字列が「塩田」でも「タワー」でもさがすことができます。タイトルを入力するときから、検索を意識するとよいでしょう。

しおりでさがす‥‥‥「しおり」は、児童生徒が大事だと思う場合に印を付ける機能です。「重要」「原因」「結果」といったしおりに印を付け、児童生徒が情報を整理し関連づけることができるようにしたものです。学習ノートを保存する際にチェックを入れたしおりをもとに、学習ノートを探すことができます。(大画面のみ)

画像情報

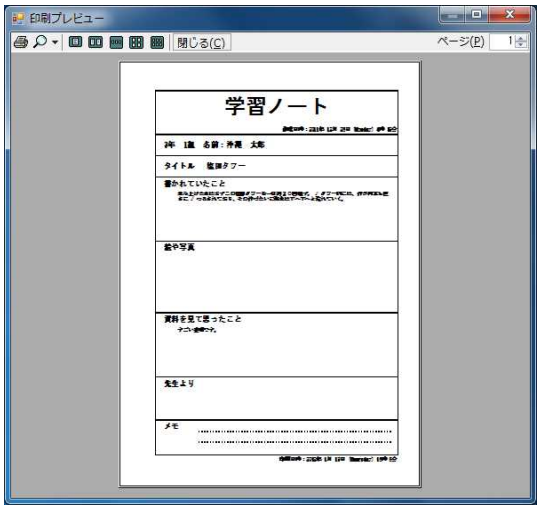
１つの学習ノートに絵や写真を２枚まで貼り付けることができます。画像情報は、必ずしも必要ということではありませんが、Web ページから作成する場合は、ドラッグ＆ドロップで貼り付けることが出来ます。(ただし Web ページ上で絵や写真を示したときの指のマークが出る場合は、リンクが設定されてるため貼り付けることができません。)

図書等から絵や写真を貼り付ける場合は、デジカメやスキャナで処理して取り込むことになります。

印刷

学習ノートは、A4 用紙に印刷できます。印刷したい学習ノートを表示し、「いんさつ」ボタンを押します。すると、図Ⅴ-26 のように印刷プレビュー画面が表示されます。

印刷する際は、印刷プレビュー画面の左上の、印刷ボタン(印刷機のマーク)を押します。



図Ⅵ-26 印刷プレビュー画面

先生より

教師から、児童生徒の学習ノートの書き込みに対するメッセージを入力すると、「先生より」のボタンが表示されます。このボタンを押すことで教師からのメッセージを読むことができます。

Ⅵ 「絆」の学習画面

19 学習状況表示① 学習状況一覧表

管理者	×	教師	○	児童生徒	×	備考	教師のみの機能です。

図Ⅵ-27 学習状況一覧表(学習のようす)

教師のみが使用できる「授業支援機能」の一つが、学習状況把握機能です。児童生徒の「作成したノート数」「投稿数」「レポート作成数」「(自分のフォルダの)フォルダ容量」が表示される「学習状況一覧表」です。教師でログインして、学習画面から、「学習のようす」タブをクリックすると表示されます。

学習状況一覧表は、これまでの累計に加え、今日の作成(投稿)数が表示されます。また、作成(投稿)数が無い児童生徒は、赤で示されます。一見しただけで、児童生徒の学習の様子が把握でき、作成(投稿)の少ない児童生徒を見つけることができます。

最新のデータを見る場合は、「更新」ボタンを押します。

さらに詳しい情報を見る時は、学習情報表示モードに切り替えます。モードに切り替える方法は、以下の２通りです。

①学習状況一覧表をダブルクリックする。

マウスで特定の児童生徒ダブルクリックします。すると、学習状況一覧表で示された特定の児童生徒の学習状況表示モードに変わります。

②学習状況表示ラジオボタンをクリックする。

学習状況一覧表で、該当する児童生徒に合わせ、学習状況表示ラジオボタンをクリックします。

学習状況表示モードを解除する方法は、以下の２通りです。

①学習状況表示解除ラジオボタンをクリックする。

②情報部の「解除」ボタンを押す。

交流広場(CSV)

児童生徒の交流広場での書き込みの記録をデータとして利用できる CSV ファイルとして書き出す機能です。書き出した CSV ファイルは、エクセルなどの表計算ソフトで読み込み、抽出や並べ替えを行い児童生徒の学びの様子を調べることができます。このデータは、授業改善に役立つほか授業研究に役立てることができます。

Ⅵ　「絆」の学習画面							
20　学習状況表示②　学習状況表示モード							
管理者	×	教師	○	児童生徒	×	備考	教師のみの機能です。

学習状況表示モードは、３７ページの表Ⅴ-1 のように「情報部」「交流広場」「レポート」「フォルダ」「学習ノート」の表示が切り替わり、学習者の学習状況を細かく知ることに加え、メッセージ等を特定の児童生徒におくることができます。

情報部

図Ⅵ-28　情報部【教師：学習状況表示モード】

学習状況表示モードでは、周りの色が、「灰色」から「薄い茶色」に変わります。また、「公開範囲」の代わりに「学習のようす(児童名)」が表示されます。新たに表示された「解除」ボタンは、学習状況表示モードを解除し学習モードに移します。
「ノート枚数」「投稿数」「レポート数」が青で強調表示されます。

「交流広場」
学習状況表示モードでは、学習状況を対象の児童生徒の投稿を図のように青く強調して表示されます。

「学習ノート」
学習状況表示モードでは、対象の児童生徒の学習ノートのみを表示します。

図Ⅵ-29　交流広場【教師：学習状況表示モード】

「フォルダ」
学習状況表示モードでは、対象の児童生徒のフォルダが表示されます。

学習活動支援ソフト Ver2.1「絆（小学校）」「絆（中学校）」
活用マニュアル
平成３１年２月１日（第一版）

著者　與古田　思信